文教育学部授業科目履修案内

平成 20 年度生用

平成 20 年 4 月

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

目　次

はじめに …… 2

文教育学部の教育システムについて …… 2

卒業するために必要な科目と単位について …… 3

学部共通の履修上の注意 …… 3

コース・環進学までの日程 …… 4

希望コース・環の申請から進学先決定まで …… 5

ピア・サポート・プログラムについて …… 6

〈人文科学科〉 …… 9
哲学・倫理学・美術史コース …… 11
比較歴史学コース …… 13
地理学コース …… 15
人文科学科［履修コース］教育課程及び履修方法 …… 17

〈言語文化学科〉 …… 25
日本語・日本文学コース …… 27
中国語圏言語文化コース …… 30
英語圏言語文化コース …… 32
仏語圏言語文化コース …… 35
言語文化学科［履修コース］教育課程及び履修方法 …… 36

〈人間社会科学科〉 …… 43
社会学コース …… 44
教育科学コース …… 46
心理学コース …… 47
人間社会科学科［履修コース］教育課程及び履修方法 …… 49

〈芸術・表現行動学科〉 …… 55
舞踊教育学コース …… 56
音楽表現コース …… 57
芸術・表現行動学科［履修コース］教育課程及び履修方法 …… 58

〈グローバル文化学環〉 …… 63
グローバル文化学環［履修コース］教育課程及び履修方法 …… 67

は　じ　め　に

この冊子は、平成20年度に文教育学部に入学した皆さんへの履修の手引きとして作成されたものです。この冊子をはじめ、『学生便覧』、『学生便覧別冊（開講科目）』などの必要な箇所を熟読して、履修上、遺漏のないように特に気をつけてください。

文教育学部の教育システムについて

文教育学部は大きく四つの学科に分かれています。各学科には複数の専門コースが置かれ、また各学科にまたがる形でグローバル文化学環（以下「環」）があります。皆さんは入学の時点で、すでに四つの学科のうちのどれかに属しています。第２学年の前期から、学生は学科内の専門コース、または環に進学して、より専門的な学習研究を続けます。基本的には、自分の希望するコース・環に進学することができますが、特定のコースあるいは環に希望者が集中した場合、振り分けが行われることがあります。振り分けの具体的な方法等については、各学科で異なるので、自分の属する学科に関するページの該当する箇所をよく読んでください。

このシステムは学生が自分の学びたいことをより自由に選べるように、そして広い視野と知識をもって専攻する分野の学習研究に取り組む力をつけることができるように作られたものです。決していい成績をとって「偏差値の高い」コースに進学するための競争をあおるものではありません。

文教育学部では、専門的知識とともに、その枠にとらわれない学際的な視野や社会に応用できる知識や実践力を育成するために、平成17年度から「グローバル文化学環」という新しい名称の共通進学コースを設置します。このコースは、グローバル化する現代社会の中で、国際協力や国際化するビジネス・学校教育・地域社会の場で活動するための知識と態度を育成することを目的にしています。

その特徴は、文教育学部の４つの学科のいずれからも進学でき、主専攻にすることができることです。カリキュラムと授業科目は、文教育学部を中心に、生活科学部や理学部とも連携して、学際的なカリキュラムを編成しています。さらに、学生の履修機会を広げるために、「副専攻制度」を新たにつくりました。専門コースに進学した学生も、グローバル文化学の専攻科目を副専攻として履修することができます。逆にグローバル文化学環の学生は、専門コースの科目を副専攻として履修することができます。自分が所属する専門コース・環の専攻科目を柱（主専攻）にしながら、他の科目群を副専攻として履修することで、学際的・実践的な力を養うことができます。

卒業するために必要な科目と単位について

学科によって、最低限履修しなければならない単位数が表のように定められています。卒業するためには、その要求を満たした上で、全体として、124単位以上を修得しなければなりません。

皆さんが履修する科目は「コア科目」「専攻科目」「関連科目」「学部共通科目」「全学共通科目」「教職共通科目」「教職に関する科目」「日本語教育基礎コース科目」「外国人留学生特別科目」に分かれています。この内、「コア科目」と「専攻科目」「関連科目」については、卒業のために修得しなければならない単位数が定められています。

「コア科目」は社会人として、また専門の研究を進めていくために必要な教養、資料や情報を扱う能力、文章を書く力などを身につけることを目的とするものです。「コア科目」はさらに、「文理融合リベラルアーツ」「基礎講義」「基礎ゼミ」「総合科目」「情報」「外国語」「スポーツ健康」に区分されます。

科目区分 ＼ 学科・専攻別	必修及び選択必修の科目・単位								自由に選択して履修する科目・単位								卒業に必要な履修単位数
	コア科目							専攻科目	関連科目	コア科目	専攻科目	学部共通科目	他学科の専攻科目	他学部の科目	全学共通科目	教職共通科目	教職に関する科目	日本語教育基礎コース科目	
	文理融合リベラルアーツ	基礎講義	基礎ゼミ	総合科目	情報	外国語	スポーツ健康												
人文科学科	18					16	2	60		28									124
言語文化学科	18					20	2	58		26									124
人間社会科学科	18					10	2	68		26									124
芸術・表現行動学科	18					10	2	64		30									124
グローバル文化学環	18					18	2	60		26									124

備考１．情報処理演習２単位は、必修とする。
２．外国語の必修単位に関しては各学科・環のページを参照のこと。
３．スポーツ健康は、スポーツ健康実習２単位を必修とし、その履修方法は別に定める。
４．教職に関する科目（教職概論及び教育実習を除く。）の単位については、６単位までを自由に選択して履修する科目・単位として取り扱う。
５．外国人留学生特別科目（外国人留学生対象）の単位については、20単位までをコア科目として取り扱う。ただし、スポーツ健康実習の単位に充てることはできない。
６．グローバル文化学環履修者は、所属学科によらず、グローバル文化学環の欄に記載される科目・単位を履修すること。

学部共通の履修上の注意

１．卒業論文・卒業研究（科目名は各コース・環で異なる）は必修である。
２．学部共通科目は、文教育学部の学生が学科を問わず履修できる科目であり、カリキュラムの定めるところにより、専門科目、教職科目、あるいは「自由に選択して履修する科目」に充てることができる。
３．教職に関する科目については、教職概論と教育実習を除き、６単位までを「自由に選択して履修する科目」に充てることができる。
４．日本語教育基礎コースについては、『学生便覧』や『開講科目』の該当するページを参照すること。
５．学芸員及び社会教育主事の資格を取得希望の者は、それぞれ『学生便覧』や『開講科目』の該当するページを参照すること。
６．言語文化学科英語圏言語文化コースの専攻科目を他コース・他学科の学生が履修する場合は、本冊子の34ページ「英語圏言語文化コース以外の学生の受講について」を必ず参照すること。
７．学生便覧「履修の手引き」に記載されている、各コース・環の高大連携特別科目「（各コース・環）選択基礎」については、本冊子への記載を省略している。
　この科目は、本学に入学する以前の高校生が履修する特別な科目であり、履修した生徒が本学に入学した場合、「自由に選択して履修する科目・単位」の専攻科目として単位認定が可能である。（詳細は教務チームに確認すること。）

コース・環進学までの日程

第1学年	4月	ガイダンス
	10月	希望コース・環予備調査
	1月下旬	希望コース・環申請
	2～3月	進学先発表
第2学年	4月	コース・環進学

○学部長や各学科代表者によるカリキュラムの説明、コース・環紹介

○各コース・環の進学希望者数を把握し、コース・環選択の参考等にするための予備調査

○この申請に基づいて、進学先が決定される。選考が行われる場合もある。

＊希望コース・環申請実施の際は、随時、学生センター掲示板等に掲示がある。希望コース・環予備調査票及び希望コース・環申請票を提出しないと、希望するコース・環に進学できないので、注意すること。

希望コース・環の申請から進学先決定まで

(1)　２年次から履修するコース・環は、１月の下旬に申請してもらいます。各コース・環の申請者数は、各コース・環の受け入れ上限数と合わせて、申請締切り後数日以内に公示します。すべてのコース・環において、申請者数（第一希望者の数）が受け入れ上限数を下回っている場合は、２月下旬の教授会においてそのまま決定します。

(2)　申請者数が受け入れ上限数を上回っているコース・環があれば、当該コース・環において選考します。

(3)　グローバル文化学環には各学科から進学できます。受け入れ上限数は、人文科学・言語文化・人間社会科学の各学科（以下「３学科」）については、それぞれ各学科の申請者総数の15％以内となっています(芸術･表現行動学科の場合は若干名となっています)。ただし、３学科のいずれかにおいて第一希望者の数が受け入れ上限数を下回った場合（A）で、別の学科において第一希望者の数が受け入れ上限数を上回った場合（B）、あるいはAの学科において第一希望のコースへの進学が認められず、かつ第二希望をグローバル文化学環にしている学生がいる場合（C）、選考によって、BあるいはCの学生がグローバル文化学環に進学することを、Aにおける受け入れ上限数を超えない範囲で認めます。

(4)　芸術・表現行動学科および他学部の学生がグローバル文化学環への進学を希望する場合には、上記とは別に、選考によって進学の可否が決まります。

(5)　他学部からの進学希望者は、１月末日までに転学部の申請を行ってもらいます。ただし、進学先の決定は、通常の進学振り分けが優先されます。

【備　　考】

(1)　進学が決定して以後は学科、コースまたは環を変更することはできません。

(2)　１年次中に６ヶ月を超えて休学した場合はコース・環の進学希望申請はできません。

ピア・サポート・プログラムについて

一年生がお茶大の生活に早く適応できるように、ボランティアの上級生が相談に乗ってくれるのがピア・サポート・プログラム（ＰＳＰ）です。文教育学部で平成15年度から行っています。詳細については、ＰＳＰのホームページを見てください。

(http://www.li.ocha.ac.jp/llc/peer/index.htm)

人　文　科　学　科

人文科学科

あなたは大学に、そして人文科学科になにを求めますか？

「何々を勉強したい」というはっきりした考えがすでにある人も、「よくわからない」という人も、この学科はどちらもおおいに歓迎します。前者の人は、本学科が提供する多数の科目に触れて世界の広さにも眼が開くでしょうし、後者の人も《自分さがし》の時間がもてるからです。１年次は、そのような時期として有意義に使ってください。

本学科にはつぎの３コースがあり、入学後１年の基礎養成期間ののち、２年次前期からいずれかへ進学することになります。

哲学・倫理学・美術史コース
比較歴史学コース
地理学コース
　　} 以下では説明の都合上これらを専門コースと呼びます

グローバル文化学環

それぞれの詳細については、コース別のページを参照してください。ここでは、人文科学科生一般のパターンについて考えてみます。あなたはつぎのどういうタイプでしょうか？

◎どれかの専門コースにはまってしまいそうな人

後述のように、原則として志望どおりに進学できます。そのコースの必修科目および選択科目を順調に履修していけば、その専門分野のひととおりの知識や技能は修得でき、卒業に必要な単位数も得られるはずです。大学院に進学を希望する人は、演習や卒業論文もとくにしっかりやってください。

◎複数の専門コースに関心がある人、興味対象が学際的でどこがいいかわからない人

１年次のうちに、学科共通科目や複数のコースの１年次指定の専攻科目を履修しながら、どこがいいかをよく考えてください。どれかを選べれば、そのコースに進学して、そこの必修科目や関連する専攻科目を履修しながら、時間が空いているかぎり他コースの科目で時間割を組むこともできます。教員免許や学芸員資格取得を第一に考える人も似たようなパターンになると思われ、このような人は１・２年次のうちから教職科目などを含めて周到な履修を進める必要があります。

なお、他コースの演習に出るにはかなり努力が必要ですし、研修旅行などは人数制限もあります。卒業論文で他コースの教員の指導も受けたい場合は、遠慮せずに相談してください。そういう場合は、あらかじめ他コース教員の講義・演習もおさめておく必要がありますから、２・３年次のうちからアクションを起こす必要があります。

◎グローバル文化学環に進学すること、またこれを副専攻として履修することができます。詳しくはグローバル文化学環の頁を参照して下さい。

●学科共通科目

本学科生全員を対象として、思想文化、歴史、社会、環境の基礎を講じる《学科共通科目》が７科目開講されていますので、４科目（８単位）以上を選択履修してください（グローバル文化学環に進学する場合を除く）。これらの科目は、コア科目や１・２年次指定のコース専攻科目とは、できるだけ重複しないように時間割が組まれています。

●１年次時間割

さて具体的に、本学科の時間割をつぎの表に示します。毎年、ほぼおなじ時間割が組まれます。１年次のうちは、コア科目を中心としながら、いくつかの専攻科目で一般的・入門的な講義を受けて自分の興味と比べてみてください。

●＝学科共通科目（提供：哲学・倫理学・美術史コース）
■＝　〃　（提供：比較歴史学コース）
▲＝　〃　（提供：地理学コース）
★＝　〃　（提供：形象分析学講座----コースは存在しません！）
無印は、専門コースが１年生用に開講している、入門的な専攻科目

前期

	１・２時限	３・４時限	５・６時限	７・８時限	９・10時限
月				■比較文化史	日本史入門講読
火	●倫理学基礎論		●哲学基礎論、地理情報学基礎演習		日本史入門講読・外国史入門講読Ⅰ
水					
木					
金				都市と自然、地理学英書講読	外国史入門講読Ⅱ

後期

	１・２時限	３・４時限	５・６時限	７・８時限	９・10時限
月				■比較社会史	
火				日本文化史概論、▲自然と人間	
水					
木					
金			★形象分析学基礎論	▲人間と空間	

注：「○○史入門講読」は、９・10限に固定されていますが、年度により学期・曜日は不定です

●進学振分けの方法

１．志望調査は学部共通のスケジュールで行いますので、絶対に提出もれがないようにしてください（予備調査はすでに１年次の10月から始まります）。志望コースの記入にあたっては、下記の注意事項①②にも留意してください。

２．グローバル文化学環への進学が可能ですが、志望者が人文科学科学生数の15％を越えた場合は、所定の方法で選考を行います。

３．《哲学・倫理学・美術史コース》、《比較歴史学コース》、《地理学コース》では、皆さんの志望を尊重するために定員制限は行わず、志望どおりに進学できます。しかし、志望者数が極端に多いコースが生じ、十分な教育が行えないと判断した場合は、選考を行うことがあります。

注意①《哲学・倫理学・美術史コース》は、これで１つのコースを構成していますが、志望調査票を出す際には「哲学」「倫理学」「美術史」のどの分野を志望するか必ず明記すること。②教員構成の上では形象分析学という講座がありますが、コースとしては存在しませんので、志望を出すことはできません。

哲学・倫理学・美術史コース

１．全般的な注意

本コースは、哲学・倫理学・美術史の３コースごとに卒業まで履修すべき科目がそれぞれ異なる。従って、２年次前期に所属するコースを決定するまでに、各自の希望するコースの指定する授業科目に従い計画的に履修すること。

２．コア科目について

1)　哲学・倫理学・美術史コースでは、いずれも専門の基礎として総合的な知識やものの見方を重視するので、基礎ゼミ・基礎講義、関連するＬＡ科目は進んで受講し、所定最低単位にとらわれず積極的に履修すること。

2)　外国語は、英語の他に未修外国語を積極的に履修すること。専門コース進学後の授業で必要とされる言語を念頭におき、よく考えて選択すること。その際、同一の言語を二カ年にわたって履修することが望ましい。

３．専攻科目について

1)　「学科共通科目」として設定されている各コースの基礎論を原則として１年次に履修すること。これを３・４年次に履修することは時間割の関係から極めて難しい。また、「学科共通科目」は全部で８単位以上履修しなければならないが、同一科目を年次を変え重複履修しても、必修単位として認定されるのは２単位のみである。

2)　その他の科目は学年指定を行っている場合が多いが、指定外の学年でも履修が認められることがある。希望する場合は、担当教員に相談すること。

3)　科目名の後にⅠ～Ⅲまでの記号を記した科目については、同一科目を卒業時まで毎年重複して履修することが可能である。従って、出来るだけ多岐にわたる科目を続けて受講することが望ましい。

4)　**美術史コースを選択する学生**は、２年次進学後の専門科目履修について次のような注意が必要である。

・「美術史学研究指導」は、２・３・４年次の連続履修を義務づける。

４．教職免許について

手引きをよく読んで、必要な科目を履修し単位を修得すること。特に教科教育法の単位を３年次に修得していないと、４年次での教育実習に参加することができないので、十分に注意すること。

5．その他

卒業論文については、４年次の第一次題目締切（５月末）以前に、各コース毎に仮題目提出を求めているので、指導教員とよく相談の上、早くから準備に着手すること。

6．哲学・倫理学・美術史コースの学生像

Ｘさん（哲学志望）

子供の頃から読書が好きで、様々な事柄に「なぜ」「どうして」といつも疑問を抱きながら成長した。そうした疑問を解決するのに、家族や友人、教師などと議論を交わすことも珍しくなく、周囲からは「議論好き」とみられていた。大学に進学後も「あらゆる人が納得するような真理は存在するのか」という様な根本的な疑問や、「身体を対象とする医学と心の研究は矛盾しないのか」という個々の学問領域を超える疑問、また「既存の学問の成果が本当に信頼できるのか」というような学問自体への疑問など、興味の範囲が次第に広がった。こうした様々な疑問を取り上げ、研究の対象とする場が哲学で、Ｘさんは演習を通じて教員達と本当の問題点は何か、どのような方法で論じればよいかを時間を経つのも忘れてよく話し合った。在学中に、知識の多さということより考え方の柔軟性・自立性を伸ばすことの必要性を学びとり、卒業後は大学院に進学し、もう少しこうした疑問を追求してみようと考えるようになった。

Ｙさん（倫理学志望）

Ｙさんは日本人の思想に興味を持って大学に入学した。神道・仏教・儒教など日本の思想、文化を通して日本人の宗教観・自然観・生死観を検討する「日本倫理思想史」を研究対象にしようと思い、倫理学を選んだ。講義では、日本中世から近代にわたるさまざな宗教家や思想家について、残された文献資料を通じて触れることが出来たし、これらの文献を直接解読して彼らの生きた姿を探る演習はとても魅力的なものだった。大学院の進学も考えたが、仕事をしながら自分の時間が持てる就職を希望している。

Ｚさん・Ｐさん（美術史志望）

Ｚさんは子供の頃に見た１枚の絵が忘れられず、大学入学後の夏休みにヨーロッパ旅行を計画した。あこがれのパリでルーブルやオルセーなどの美術館で多くの作品に接するうち、西洋近代絵画について、画家とパトロン・画家と画商との関係について興味を覚えた。造形作品の技法や様式を分析するだけでなく、作品の社会的な背景にまで考察の範囲を広げられる美術史学は、Ｚさんには最適の領域であった。卒業後は出版社・マスコミなど自分の好きな美術といつも関わりが持てるような企業に就職を希望している。友人のＰさんは、京都や奈良の古い寺院を訪ねるのが好きで、仏教美術に関する興味から美術史を選んだ。仏像の図像的分析やインド・中国と日本の尊像や仏画の様式的比較など、それまで日本の仏像にだけ向いていた関心が次第にアジアの他の地域へと広がっていった。学芸員課程の授業も並行して履修しているので、将来は大学院で研究を続け出来れば美術館の学芸員に就職することを希望している。

比較歴史学コース

0．コースの概要

本コースは、日本史、東洋史、西洋史の三つの専攻分野を柱とし、この三つの領域を専門として学ぶ力をつけながら、同時に、地域や時代をこえたさまざまな比較を行うことによって、多様な視点と独自の発想にもとづき、自分で見つけだした課題に鋭く切り込む歴史学を追究する。

２年次には、日本史、東洋史、西洋史の三つの分野について、史料にふれながら基本的な研究方法を学ぶ。３年次には、各自の関心にそって、演習と専門講義を受講する。４年次には、総仕上げとして、１年がかりで、卒業論文を書きあげる。

1．全般的な注意

本コースでは、歴史学以外の幅広い知識や総合的なものの見方を重視するので、所定の単位数にこだわらず、積極的にコア科目、専攻科目を履修することが望ましい。なお、比較歴史学コースに興味を持つ人は、コース所属教員の行うコア科目（文理融合リベラルアーツ、基礎講義や基礎ゼミなど）や学部共通・学科共通科目をすすんで履修することが望ましい。

2．コア科目について

1）コア科目の外国語必修単位は16単位である。未修外国語（フランス語、ドイツ語、中国語）を必修外国語とする場合は１か国語（16単位）の履修でよいが、英語（既修外国語）を必修外国語とする場合は、英語だけで必修単位を満たすことはできないので注意すること。英語の場合、必修分の認定単位は10単位であるので、残りの単位は英語以外の外国語で取得すること。その場合の未修外国語の履修方法は、各外国語で指定された方法に従うこと。また英語の場合、英会話Ⅰ～Ⅳのうち必修単位に充てられる上限は２単位であるので注意すること。学生便覧の該当部分（Ⅳ 履修方法等、１．授業科目区分・履修方法（コア科目）の、外国語の履修に関する部分）を熟読の上、間違いのないようあらかじめ計画をたてて履修すること。

2）外国語は、二か国語以上を履修することが望ましい。またその他の外国語も、コア科目でロシア語、朝鮮語、学部共通科目でイタリア語、スペイン語、ギリシア語、ラテン語、比較歴史学コース専攻科目でアラビア語（東洋史諸言語）などが開かれているので、特に外国史や大学院志望の人は、すすんで履修することが望ましい。

3．専攻科目について

1）１年次においては、本コースへのガイダンスをかねて、比較文化史、比較社会史（以上学科共通科目）、および、各専攻分野（日本史、東洋史、西洋史）の入門講読を開講する。本コース所属教員の人となりや関心分野を知る良い機会であるので、できるだけ多く履修することが望ましい。但し、本科目を受講せずに本コースへ進学することは妨げない。比較文化史、比較社会史は、比較の視点から、それぞれ一つの共通テーマを、専攻分野にまたがって、複数の教員が講義するものであり、本コース所属教員は、これら二つのいずれかに必ず出講することになっている。ちなみに最近のテーマは、「葬送と儀礼」「歴史書と歴史家」「ホモセクシュアル」「食と文化」「戦争」「旅」「踊り」「水」「リスク」などであった。

2)　本コースは、各学年で開講する専攻科目を以下のように決めている。

2 年 次　　各専攻分野（日本史、東洋史、西洋史）の研究法と講読、英語でよむ歴史、論文講読＊、歩いて学ぶ比較歴史

3－4年次　各専攻分野の演習や専門講義、多領域にまたがる講義

3)　研究法は、2年前期に開講し、本コース進学者は4単位以上を履修することが望まれる。講読は、各分野の史料や論文を講読するもので、2年後期に開講するので、本コース進学者は4単位以上を履修することが望ましい。英語でよむ歴史は、2年前期に開講し、歴史学一般に関する論理的な英語の文章を読むことを目的とする。履修することが望まれる。論文講読＊は、2年後期に、日本語の専門論文を演習形式で講読するもので、日本史・外国史のいずれかを履修することが望ましい。

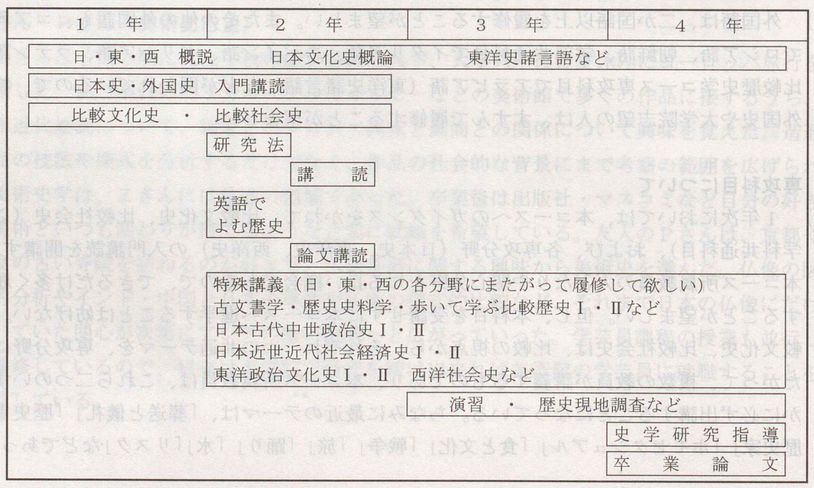
4)　演習は、3・4年次にわたって履修し、3年次には複数履修すること。なお、複数の専攻分野（日本史、東洋史、西洋史）にまたがることは妨げない。卒業のためには8単位以上履修する必要がある。また、8単位を超えて取得した単位は、本コースの専攻科目の単位として充当することができる。

5)　さらに各専攻分野の理解を深めるために、フィールドワークを中心とする「歩いて学ぶ比較歴史」（2年次以降）、「歴史現地調査」「歴史史料調査」（3年次以降）を履修することをお勧めする。

4．卒業論文について

最近の卒業論文テーマは、「律令国家の災異観－正史にみる「災」と「異」－」「見える巡礼　見えない巡礼」「近世浜松と御役町の成立」「明治の国際結婚」「古代中国の日蝕」「イスラム世界における女性の生活空間」「中世ヨーロッパにおける隠者のイメージ」「フィリップ・ル・ボン治世における金羊毛騎士団員の選出」「愛唱歌から見たナチ体制下の青少年」などである。東南アジアやインカ帝国を扱ったものもいるように、テーマの選定は自由であり、本人の自主性に任せている。他大学の研究者などに必要なサポートを受けたい場合には、なるべく早めに指導教員と相談をすることが望ましい。

比較歴史学コース・カリキュラム



地理学コース

次ページの図にもとづいて、地理学コースの教育体系を説明します。

●1 年 次：コア科目の履修に主力を注ぎながら、いくつかの地理学への入門的な講義・演習を履修してください。「人間と空間」「自然と人間」は学科共通科目、「都市と自然」は地理学コース必修科目で、いずれも地理学コース教員の講義で幅広い題材を扱います。「都市と自然」は、かりに地理学コースに進学しなかった場合でも選択科目として算定されます。後期には「地理情報学基礎演習」が隔年で開講され、地図作業やコンピュータ操作などの基礎的な実習が行われます。また日帰りの野外調査である「地理学フィールドワークＢ」は必修科目で、1年次から履修できます。

コア科目では、「情報処理演習」が、ＬＡ科目では「情報社会の安全保障」「大気と気象」が、地理学コースが提供している科目です。教職免許、社会調査士資格、学芸員資格を取りたい人は、余裕のあるときに該当する必修科目を取得しておくのがいいでしょう。なお、測量士補免許に関わる多くの専門科目を開講しており、測量士補の国家試験を受ければ免許が取得できます。

●2 年 次：地理学コースに進学し、専門講義や専門演習が本格的に実施されていきます。

必修科目として、「地図学」「地理情報システム演習Ⅰ」があり、選択必修科目として、「環境地理学基礎演習」と「人文地理学分析基礎演習」、さらに「地理学英書講読」（1年次からも履修可）があります。

専門講義は、以降卒業するまでいくつでも履修でき、必要な単位数を満たしてください。なお、2年次後期では、後述の専門講義の一部が独語・仏語・中国語の中級と重複することがありますので、前期のうちに年間を通じた履修計画を考えてください。

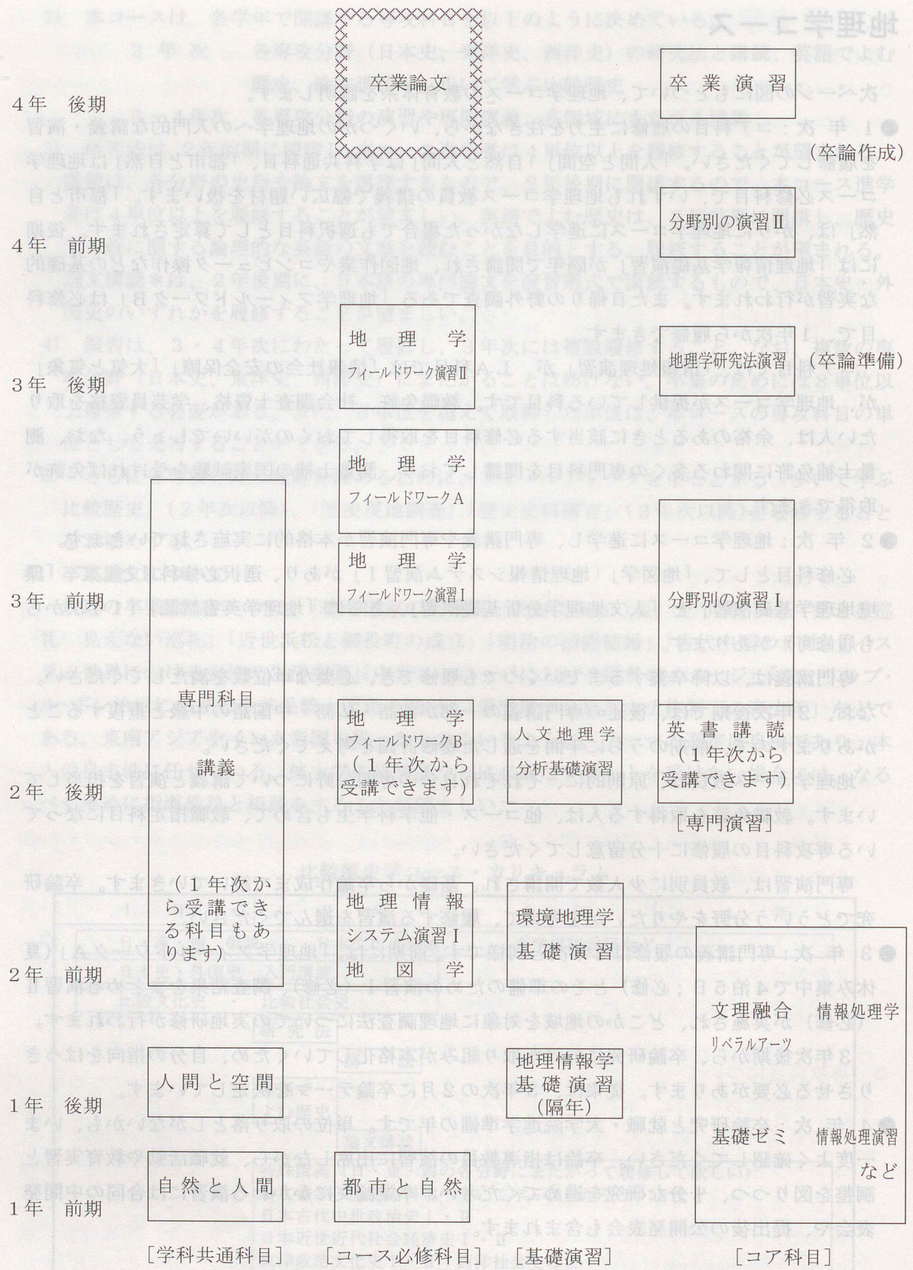
地理学コース教員は、原則的に、それぞれ自分の専門分野について講義と演習を担当しています。教職免許を取得する人は、他コース・他学科学生も含めて、教職指定科目になっている専攻科目の履修に十分留意してください。

専門演習は、教員別に少人数で開講され、基礎から卒論作成まで続いていきます。卒論研究でどういう分野をやりたいかを考えて、履修する演習を選んでください。

●3 年 次：専門講義の履修は2年次と同様です。前期には、「地理学フィールドワークＡ」（夏休み集中で4泊5日；必修）とその準備のための演習Ⅰ（必修）、調査結果をまとめる演習Ⅱ（必修）が実施され、どこかの地域を対象に地理調査法についての実地研修が行われます。

3年次後期から、卒論研究に向けた取り組みが本格化していくため、自分の指向をはっきりさせる必要があります。従来は、3年次の2月に卒論テーマを決定しています。

●4 年 次：卒論研究と就職・大学院進学準備の年です。単位の取り落としがないかも、いま一度よく確認してください。卒論は指導教員の演習に出席しながら、就職活動や教育実習と調整を図りつつ、十分な研究を進めてください。卒業論文にかかわる演習には合同の中間発表会や、提出後の公開発表会も含まれます。



地理学コース・履修モデル図

人文科学科［履修コース］教育課程及び履修方法

授業科目	単位数	学年
◎学科共通		
●コア科目	36	
○文理融合リベラルアーツ	18	1～4
○基礎講義		1～4
○基礎ゼミ		1
○総合科目		1～4
○情報		1
○外国語	16	1～4
○スポーツ健康実習	2	1
●学科共通専攻科目(選択)	8	
哲学基礎論	2	1～2
倫理学基礎論	2	1～2
形象分析学基礎論	2	1～2
比較文化史	2	1～2
比較社会史	2	1～2
自然と人間	2	1～2
人間と空間	2	1～2
●自由に選択して履修する単位	28	
◇哲学・倫理学・美術史コース		
○履修コース必修科目	8	
卒業論文	8	4
○履修コース選択科目	44	
（履修コース科目・関連科目から44単位以上修得）		
［履修コース科目］		
哲学概論 Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
西洋哲学史 Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
哲学 A Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 B Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 C Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
哲学基礎演習	4	1～3
概念分析論演習 Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
理論分析論演習 Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
問題分析論演習 Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
哲学演習 A Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 B Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 C Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 D Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
哲学特別研究 A Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 B Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
英書講読・哲学	2	2～4
哲学研究指導	2	4
倫理学概論 Ⅰ	2	1
同 Ⅱ	2	1
日本倫理思想史 Ⅰ	2	1
同 Ⅱ	2	1
西洋倫理思想史 Ⅰ	2	1
同 Ⅱ	2	1
倫理学演習 A	4	2～4
同 B	4	2～4
倫理学特殊講義 A Ⅰ	2	2～4
同 A Ⅱ	2	2～4
同 B Ⅰ	2	1
同 B Ⅱ	2	1
倫理思想史特殊講義 A Ⅰ	2	2～4
同 A Ⅱ	2	2～4
同 B Ⅰ	2	2～4

同　B　Ⅱ	2	2～4
倫理思想史演習A	4	2～4
同　B	4	2～4
宗教と倫理学	2	2～4
生命と倫理学	2	2～4
日本の社会と文化	2	2～4
英書講読・倫理学	2	1
倫理学研究指導	2	4
日本倫理思想史研究	2	2～4
西洋倫理思想史研究	2	2～4
倫理学研究	2	2～4
日本倫理思想史資料講読	4	2～4
西洋倫理思想史資料講読	4	2～4
倫理学資料講読	4	2～4
形象分析学概論	2	2～4
西洋美術史A　Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
同　Ⅲ	2	2～4
同　B　Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
同　Ⅲ	2	2～4
東洋美術史A　Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
同　Ⅲ	2	2～4
同　B　Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
同　Ⅲ	2	2～4
美術史学演習Ⅰ	4	2～4
同　Ⅱ	4	2～4
同　Ⅲ	4	2～4
形象分析学演習Ⅰ	4	2～4
同　Ⅱ	4	2～4
同　Ⅲ	4	2～4
形象分析学調査演習	2	2
形象分析学作品調査	2	2～4
美術史学特殊講義Ⅰ	4	2～4
同　Ⅱ	4	2～4
同　Ⅲ	4	2～4
形象分析学特殊講義Ⅰ	4	2～4
同　Ⅱ	4	2～4
同　Ⅲ	4	2～4
図像分析学特殊講義Ⅰ	4	2～4
同　Ⅱ	4	2～4
同　Ⅲ	4	2～4
英書講読・美術史	2	2～4
美術史学研究指導Ⅰ	4	2～4
同　Ⅱ	4	2～4
同　Ⅲ	4	2～4
（他コース開講科目）		
日本古代中世文化史	2	
日本近世近代文化史	2	
日本古代中世史特殊講義	2	
日本近世近代史特殊講義	2	
日本古代中世政治史	2	
日本近世近代政治史	2	
日本古代中世社会経済史	2	
日本近世近代社会経済史	2	
東洋史概説	2	
東洋史研究法	2	
東洋史特殊講義Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
東洋政治史	2	
東洋政治社会史	2	
東洋政治文化史	2	
東洋社会文化史	2	
東洋社会経済史Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
東洋史諸言語Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
西洋史特殊講義Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
西洋政治史Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
西洋社会経済史Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
西洋社会史	2	
西洋中世史	2	
西洋近代史	2	
西洋現代史	2	
西洋政治文化史	2	
アメリカ史	2	
フランス史	2	
ドイツ史	2	
イギリス史	2	
西洋史諸言語Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
考古学通論Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
歴史考古学	2	
比較女性史(日本)	2	
同　(外国)	2	
比較家族史(日本)	2	
同　(外国)	2	
歴史人類学(日本)	2	

同　(外国)	2	
都市と自然	2	
歴史・文化地理学	2	
［関連科目］		
アジア比較言語文化論	2	
ヨーロッパ言語文化論	2	
言語学概論	4	
日本古典文学史論(中古)	2	
同　(中世)	2	
英文学史Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
仏文学特殊研究	4	
ジェンダー論	2	
文化人類学概論	2	
博物館学概論	2	
博物館資料特殊講義	2	
ギリシャ語	4	1～4
ラテン語	4	1～4

◇比較歴史学コース

○履修コース必修科目	10	
史学研究指導	2	4
卒業論文	8	4
○履修コース選択科目	42	
（以下の科目から8単位以上修得）		
日本古代史演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
日本中世史演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
日本近世史演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
日本近代史演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
日本古代史料演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
日本中世史料演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
日本近世史料演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
日本近代史料演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
東洋政治史演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
東洋社会史演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
東洋社会経済史演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
西洋政治史演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
西洋社会史演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
西洋社会経済史演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
西洋政治史料演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
西洋社会史料演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
西洋社会経済史料演習Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
歴史情報論演習(日本)Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
同　(外国)Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
都市社会史演習(日本)Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
同　(外国)Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
日本史講読	2	2
東洋史講読	2	2
西洋史講読	2	2
日本史概説	2	1～4
東洋史概説	2	1～4
西洋史概説	2	1～4
日本史研究法	2	2
東洋史研究法	2	2
西洋史研究法	2	2
英語でよむ歴史	2	2～4
日本史入門講読	2	1～2
外国史入門講読Ⅰ	2	1～2
外国史入門講読Ⅱ	2	1～2
日本史論文講読Ⅰ	2	2～3
同　Ⅱ	2	2～3
外国史論文講読Ⅰ	2	2～3
同　Ⅱ	2	2～3
古文書学	2	2～4
考古学通論Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
歴史考古学	2	2～4
史跡調査	2	2～4
日本文化史概論	2	1～4
日本古代中世文化史	2	2～4
日本近世近代文化史	2	2～4
日本古代中世史特殊講義	2	2～4

日本近世近代史特殊講義	2	2～4
日本古代中世政治史	2	2～4
日本近世近代政治史	2	2～4
日本古代中世社会経済史	2	2～4
日本近世近代社会経済史	2	2～4
東洋史特殊講義Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
東洋政治史	2	2～4
東洋政治社会史	2	2～4
東洋政治文化史	2	2～4
東洋社会文化史	2	2～4
東洋社会経済史Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
東洋史諸言語Ⅰ	2	1～4
同　Ⅱ	2	1～4
西洋史特殊講義Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
西洋政治史Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
西洋社会経済史Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
西洋社会史	2	2～4
西洋中世史	2	2～4
西洋近代史	2	2～4
西洋現代史	2	2～4
西洋政治文化史	2	2～4
アメリカ史	2	2～4
フランス史	2	2～4
ドイツ史	2	2～4
イギリス史	2	2～4
西洋史諸言語Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
歴史史料学(日本)	2	2～4
同　(外国)	2	2～4
都市社会史(日本)	2	2～4
同　(外国)	2	2～4
歴史情報論(日本)	2	2～4
同　(外国)	2	2～4
比較女性史(日本)	2	2～4
同　(外国)	2	2～4
比較家族史(日本)	2	2～4
同　(外国)	2	2～4
歴史人類学(日本)	2	2～4
同　(外国)	2	2～4
史的ネットワーク論(日本)	2	2～4
同　(外国)	2	2～4
史的マイノリティー論(日本)	2	2～4
同　(外国)	2	2～4
歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
歴史史料調査Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
同　Ⅲ	2	3～4
同　Ⅳ	2	3～4
歴史現地調査Ⅰ	2	3～4
同　Ⅱ	2	3～4
同　Ⅲ	2	3～4
同　Ⅳ	2	3～4
(他コース開講科目)		
哲学概論Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
西洋哲学史Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
同　Ⅲ	2	
日本倫理思想史Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
西洋倫理思想史Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
西洋美術史AⅠ	2	
同　Ⅱ	2	
同　Ⅲ	2	
西洋美術史BⅠ	2	
同　Ⅱ	2	
同　Ⅲ	2	
東洋美術史AⅠ	2	
同　Ⅱ	2	
同　Ⅲ	2	
東洋美術史BⅠ	2	
同　Ⅱ	2	
同　Ⅲ	2	
都市地理学	2	
歴史・文化地理学	2	
地誌学	2	

◇地理学コース

○履修コース必修科目	24	
都市と自然	2	1
地図学	2	2
地理情報システム演習Ⅰ	2	2
地理学フィールドワークA	1	3
同　B	1	2
地理学フィールドワーク演習Ⅰ	2	3
同　Ⅱ	2	3

地理学研究法演習	2	3
地理学英書講読	2	1～3
地理学卒業演習	2	4
卒業論文	8	4
○履修コース選択科目	28	
(以下の科目から4単位以上修得)		
環境地理学基礎演習	4	2
人文地理学分析基礎演習	4	2
(以下の科目から24単位以上修得)		
経済地理学	2	1～4
社会地理学	2	1～4
都市地理学	2	1～4
歴史・文化地理学	2	2～4
自然地理学	2	1～4
地誌学	2	2～4
測量学	2	2～4
地理学特殊講義Ⅰ	2	2～4
同　Ⅱ	2	2～4
同　Ⅲ	2	2～4
同　Ⅳ	2	2～4
同　Ⅴ	2	2～4
同　Ⅵ	2	2～4
地理情報学基礎演習	2	1～2
地域分析学演習Ⅰ	2	2～3
地域分析学演習Ⅱ	2	4
環境地理学演習Ⅰ	2	2～3
環境地理学演習Ⅱ	2	4
歴史・文化地理学演習Ⅰ	2	2～3
歴史・文化地理学演習Ⅱ	2	4
社会地理学演習Ⅰ	2	2～3
社会地理学演習Ⅱ	2	4
都市・福祉地理学演習Ⅰ	2	2～3
同　Ⅱ	2	4
地理情報システム演習Ⅱ	2	2～3
(他コース開講科目)		
哲学概論Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
倫理学概論Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
哲学　AⅠ	2	
同　BⅠ	2	
同　CⅠ	2	
日本文化史概論	2	
東洋史概説	2	
西洋史概説	2	
考古学通論Ⅰ	2	
同　Ⅱ	2	
西洋美術史AⅠ	2	
西洋美術史BⅠ	2	
東洋美術史AⅠ	2	
東洋美術史BⅠ	2	
都市社会史(日本)	2	
同　(外国)	2	
歴史情報論(日本)	2	
同　(外国)	2	
文化理論研究	2	2～4
地域開発論Ⅰ	2	2～4
フィールドワーク方法論	2	2～4

言語文化学科

言語文化学科

1．学科の概要

言うまでもなく、言語は人間の思考やコミュニケーションのもっとも重要な手段であり、本学科では、今後の職業や社会生活に役立つように、日本語及び外国語の運用能力を高める訓練を行う。さらに、言語を単なる道具としてとらえるのではなく、その歴史や構造について考え、また、人間が今までに築き上げてきた文学を中心とする言語文化について知り、研究する機会を与える。

本学科には四つの専門コース（日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コース）がある。また、学部共通コースとしてグローバル文化学環が設けられている。各コースの紹介を読み、また教員や先輩たちからも情報を収集して、進学するコースを選択してほしい。

2．全般的な注意

１年次にはコア科目や全学・学部・学科共通専攻科目を中心に履修する。漠然と必修単位を満たしていくのではなく、進学先、卒業後の進路についてよく考えて履修科目を選択すること。また、コア科目、全学・学部・学科共通科目は学年が進行すると、時間割の制約から履修しにくくなることもあるので、少なくとも必修単位数は２年生までに満たしておくことを勧める。

１年生の10月に進学希望コース予備調査、１月下旬に進学希望コース申請が行われる。進学先は、自分の興味のあり方、卒業後の進路等を考慮に入れて、慎重に選択すること。そのためには、１年生の最初から、好奇心旺盛に授業に参加することが必要である。なお、言語文化学科の授業は、大人数の授業が不可能な演習形式をとるものが多いので、授業に参加する人数の制約がある。そのため、特定のコース・環に希望者が集中した場合には、選考を行うことがある。その場合は、第一希望のコースに進学できないこともあるので承知しておくこと。詳細は「６．進学振り分けについて」を見ること。

２年次から各コース・環に進学し、ほとんどがコースの専攻科目を履修することになるが、自分の学習研究の必要に応じて、他コースや他学科の授業に積極的に参加することも望ましい。但し、他コースの学生が履修できない科目もあるので注意すること。

いずれのコースに進学しても、言語文化学科における学習研究を通じて、鋭い言語意識と豊かな文化教養を身につけてほしい。

3．コア科目の外国語について

言語文化学科の外国語必修単位は20である。英語を主にするならば10単位、ドイツ語、フランス語、中国語を主にするならば16単位のいずれかを修得した上、主にした言語と異なる言語を最低限一言語修得しなければならない。主にした言語以外の言語には、上に挙げた言語の他、ロシア語、朝鮮語も含まれる。そして、外国語の修得単位が合計で20単位以上でなければならない。

なお、グローバル文化学環については、グローバル文化学環の頁を参照すること。

4．学科共通専攻科目について

８単位以上履修しなければならない。進学先決定の参考にもなる科目である。なるべく多くの科目を履修すること。

5．コース必修・選択科目について

各コースの専攻科目の多くは、コース進学後に開講されるが、第１学年に開講されるものもある。進学後に、指定された学年と異なる年次に履修することも可能だが、時間割上、履修が困難になることも考えられるので、なるべく指定された学年で履修すること。

なお、言語文化学科の関連科目については39ページに一括して掲載されている。履修の際に参考にしてほしい。

6．進学振り分けについて

各コース・環で受け入れ可能な人数の目安は以下の通りである。

日本語・日本文学コース	33
中国語圏言語文化コース	12
英語圏言語文化コース	33
仏語圏言語文化コース	12
グローバル文化学環	学生数の15%

※進学希望コース申請の際、進学希望者がこの数を著しく超えたコースにおいては人数の調整を行うことがある。第一希望のコースに進学できない者は、第二希望以下のコースに回ることになる。調整を行う場合の方法は以下の通りである。

・専門コースの場合

当該コースを第一希望とした者は指定された期日までに、学習計画または志望理由等を記入したレポートを提出する。さらに、当該コースの定めた科目の筆記試験を行う。レポートと筆記試験の成績により、進学予定者が決定される。

各コースの試験科目は以下の通りである。

日本語・日本文学コース	日本文学史・日本語学を中心とした専門試験
中国語圏言語文化コース	中国語
英語圏言語文化コース	英語
仏語圏言語文化コース	フランス語

・グローバル文化学環の場合

グローバル文化学環については別に定める。詳しくはグローバル文化学環の項を参照すること。

なお文書提出や試験の日程等については、進学希望コース申請後に掲示するので、注意すること。

進学希望コース申請の前に、コースの選択に関して、学年担当教員に相談することが望ましい。

日本語・日本文学コース

1．コースの概要

日本人なら日本語や日本文学がわかるのはあたりまえ!!……だろうか。日本語ぬきには何も考えられず、何も表現できないこの「わたし」は、一見同じように日本語を駆使する「あなた」の考えや表現を、過不足なく理解しているのだろうか。まして「いにしえのあなた」の考えや表現については、ほんとうに理解できるといえるのだろうか。額田王に清少納言、鴨長明に上田秋成、樋口一葉に宮沢賢治 ― こうした歌人たちや作家たちと、友人になる確かな方法は、はたしてあるのだろうか。上代から現代にいたることばの海の深みを探り、日本語と日本文学の真実へとアプローチする探索行を、本コースは提供する。

１年次には日本語の構造を考えることの楽しさを知り、日本文学を読む楽しさを味わう。２年次には基本的な研究方法を学び、みずから原典を読み解き日本語を解析することへと出発する。また１年次から３年次にかけて、日本語・日本文学の歴史的な諸相を捉えてゆくことのおもしろさも見出す。３年次には各自の関心にもとづいて、より専門的な研究方法や知識を学ぶ。４年次には専門分野を定め、卒業論文を作成する。オーソドックスな講義や演習に加えて、変体がな解読あり、コンピュータ検索あり、女性論ありの多彩な授業が用意されている。

卒業論文は日本語・日本文学探索行の一つの達成点である。本コースの前身である国文学科の卒業論文の完成度は従来非常に高く、学界へのすぐれた新説をいくつも生み出してきた。今後とも本コースでのすぐれた成果が期待される。

2．全般的な注意

本コースは、上代から現代にいたる各時代をカバーした日本語学・日本文学の科目を用意している。最初から狭い関心にとらわれるのではなく、各科目を幅広く履修し、さまざまな分野に目を開いてゆくことを勧める。その幅広さが、やがてはみずからの専門性を深めてくれるからである。

3．コア科目について

1）　基礎講義・基礎ゼミ・文理融合リベラルアーツ科目、「日本語論」「日本文学」など、積極的に履修してほしい。

2）　外国語　一の外国語（英・独・仏・中）を必修とし、英語を必修とした場合は10単位以上、独・仏・中を必修とした場合は16単位以上を履修する。なおかつ２か国語（ロシア語・朝鮮語を含む）以上の履修によって所定20単位を満たすようにする。

4．専攻科目について

1）　日本語学・日本文学のそれぞれについて、教師による講義を中心とした講義科目と、学生による調査報告や討議を中心とした演習科目が幾種類も設けられていて、基礎から応用へと段階を踏んで専門性を獲得してゆけるよう、カリキュラムが組まれている（29ページ図参照）。必修科目は計画的に履修し、選択科目は幅広い関心の養成につとめるべく履修してほしい。

2) 日本古典文学論基礎演習Ⅰ～Ⅳの中から１つを、２年次に必ず履修する。これは本コースでの最も基礎的な研究方法を修得するものであり、３・４年次の演習（８単位以上を必ず履修）は、これらの基礎演習の上に立って展開される。

3) 書道Ⅱは教育職員免許状の取得に関わる科目であると同時に、古典籍読解の基礎となる変体がなを修得する科目でもあるので、２年次に必ず履修する。

4) 隔年に開講される科目もあるので注意する。

5) 卒業論文は、４年次に各分野に分かれて作成する。作成に際し、当該分野の教員による日本文学研究指導、日本語学研究指導のうちいずれかを必ず履修する。

5．教育職員免許状について

国語の教育職員免許状を取得しようとする場合、「教科に関する科目」は本コースの専攻科目・関連科目の履修にしたがって取得できるが、「コア科目」「教職に関する科目」については、できるだけ１・２年次から計画的に履修することが望ましい。

6．そ の 他

日本語教育は、日本語を母語としない人々に日本語を教えるにあたっての諸問題に関する学問であり、日本語学・日本文学と関連が深い分野といえる。日本語教育基礎コースの履修は、日本語教育を志す場合にはもちろん、そうでなくとも日本語や日本文化を客観的に捉えなおすためにも有効である。

日本語・日本文学コース　カリキュラム

１年　２年　３年　４年

コア科目　特に日本語論、日本文学

日本語教育基礎コース

学科共通専攻科目　特に日本言語文化概論

概　　論〔１年〕
日本語構造論概論
日本文学概説

文学史論〔１～３年〕
日本古典文学史論＊　日本近代文学史論＊　いずれも必修

講　　読〔１～３年〕
日本古典文学論講読＊　日本近代文学論講読＊

特殊研究
日本語構造論特殊研究＊〔１～３年〕　日本語史特殊研究＊〔２～３年〕
日本古典文学論特殊研究＊〔２～４年〕　日本近代文学論特殊研究＊〔２～４年〕

特殊講義〔２～４年〕
日本語構造論特殊講義＊　日本語史特殊講義＊
日本上代文学論特殊講義＊　日本近代文学論特殊講義＊　日本現代文学論特殊講義＊
日本中古文学論特殊講義＊　日本中世文学論特殊講義＊　日本近世文学論特殊講義＊

日本語音声表現論〔２～３年〕
日本語文章表現論〔２～３年〕

異言語文化受容論〔２～４年〕　日本古典文学表現論〔２～４年〕

基礎演習〔２年〕
日本古典文学論基礎演習＊
１を必修とする

演　　習〔３年〕
日本古典文学論演習＊
日本近代文学論演習＊
日本語構造論演習
日本語史演習＊
２を必修とする

研究指導〔４年〕
日本文学研究指導
日本語学研究指導
１を必修とする

卒業論文〔４年〕
必修

書　　道〔１～４年　ただし書道Ⅱは２年次履修のこと〕
書道Ⅰ　書道Ⅱ

科目名＊……複数開講科目。＊部に数字（時代名）（ジャンル名）等が入る。

中国語圏言語文化コース

1．コースの概要

授業の内容は以下の五つに分類される。

1)　中国語の資料を扱うための力を身につけるためのもの
2)　古典文学
3)　近現代文学
4)　中国語学
5)　そ の 他

1)には現代語の運用能力を高める科目と、古典、現代語のテキストを読む力を身につけるものとがある。2)は先秦から清にいたる時期の文学を扱う。中国においては、伝統的に文学の概念が広く、文献学的なテーマも扱う。また、いわゆる漢文訓読文と中国古典文献との相違を考えることを通じて、日中の文化交流の問題についても扱う。3)は清末から現在にいたる時期の文学を扱う。台湾や香港の文学についても扱うことがある。4)は主として中国語の文法を扱う。日本語と中国語の対照研究も行う。5)には、教職関係の科目、中国の社会や文化についての科目等がある。

コース進学後、三年生までは、一つの分野に偏らず、広く履修することを勧める。卒業論文のテーマとしては、上の分類の2)から4)の範囲で選択することを勧めるが、自分の関心に基づいて、それ以外のテーマを選んでもよい。どの分野を選ぶにせよ、ほとんどの場合、学習を始めて３年程度で中国語の資料に取り組まなければならないので、計画的な準備が不可欠である。

卒業後は、官庁や一般企業への就職、中学・高校の教師、大学院への進学が主な進路となる。最近は、中国語の即戦力を期待されての就職も増えてきている。就職の場合は、特に中国語の運用能力を高めておくと、採用に有利であると思われる。

2．コア科目について

本コースに進学を希望する者は以下の点に注意して、コア科目を履修すること。

主たる外国語として中国語を選択し、履修すること。また、中級はⅠ、Ⅱ，Ⅲ，Ⅳとも履修すること。二年次から専攻科目で中国語の文献を扱うので、中国語の学習に対しては、大きな精力を注いでほしい。

英語は、最低でも基礎英語と、総合英語Ⅰ、Ⅱを履修するのが望ましい。その他の外国語に対しては、二年次以降に履修するのが望ましい。

リベラルアーツは積極的に履修することを勧める。

3．学科共通科目について

本コースに進学を希望する者は、中国文学史を履修すること。一年次に履修していない場合、進学後に履修を求めることがあるので注意すること。

その他の科目についても、なるべく多く履修すること。

4．専攻科目について

一年次より、選択科目ではあるが、コースの専攻科目が開講されている。本コースに進学希望の者は、中国古典文献講読入門及び基礎、中国語ヒアリング基礎を履修すること。一年次に履修していない場合、進学後に履修を求めることがある。

その他の専攻科目についても、なるべく多様な分野の科目を履修するのが望ましい。

5．卒業論文について

三年次の学年末試験終了後、一回目の卒論指導会がある。その時点までに、卒論で取り組む分野やテーマについて、イメージを作っておくこと。卒論指導会の際に、指導教員を決め、四年次の前期に開講される各指導教員による特別演習を必ず履修して、卒論作成の準備にとりかかる。卒業論文は四年間の学習成果の集大成であり、自分の力を十分発揮して納得のゆく論文を書いてほしい。５月末に第一次題目届、夏休み前に中間発表があるので、掲示に注意して、手続きを怠らないように。論文の締め切りは、例年、12月20日ごろとなっている。提出期限を過ぎては、論文は受理されないので、くれぐれも気をつけること。卒業論文の単位を取得するためには、２月上旬（予定）に行われる口頭試問に合格しなければならない。

6．教職免許について

本コースにおいては、中国語及び国語の教職免許が取得できる。教職に関する説明の冊子を熟読すること。

「教科に関する科目」については、中国語においては、本コース開講の科目のみで必要な単位を満たすことができるが、国語においては、日本語・日本文学コース開講の科目を相当数修得しなければならない。日本語・日本文学コース以外の学生が受講できない科目もあるので注意すること。

また、三年次に教科教育法を履修していないと、四年次に教育実習ができないので注意すること。

中国語のみで教職免許をとることは、教育実習校を探すのが困難なため、極力避けてほしい。最低限、国語科教育法Ⅰ・Ⅱを三年次に履修の上、国語で教育実習を行うように強く勧める。

英語圏言語文化コース

1．全般的な注意

英語圏言語文化コースを選択する学生は、コース選択までの１年間、コア科目と学科共通科目により、言語と文化について幅広い教養を身につけるとともに、一年次での履修が指定されている専攻科目として英文法を履修する。コース決定後は、専門の演習科目によって英語の読解力・運用力を高めると同時に、英語圏の文学と文化、また英語学の基礎を学ぶ。また、２年次中に英文学・米文学・英語学のなかから自分が専攻しようとする分野を決定し、３年次にはその分野に応じた演習と講義科目を履修して専門知識を深める。４年次にはこれらの総合的成果として卒業論文を英語で作成する。

本コースでは、以上の目的を達成するため、専攻科目の段階的かつ系統的な履修を規程している。履修に当たっては次の２～５の事柄に十分に留意すること。

2．専攻科目について

1）コース選択に先立つ専攻科目の履修

英語圏言語文化コースを選択する学生は、コア科目と学科共通科目に加え、１年次の専攻科目として英文法を履修しておかなければならない。この単位は専攻科目（選択）として認定される。

2）コース決定後の専攻科目の履修

コース決定後は、必修科目［20単位］に加え、選択科目（準必修科目［14単位以上］、演習講義科目［12単位以上］、特殊講義科目［４単位以上］）のなかから専攻する分野に応じて履修をおこなう。単位構成の詳細は本冊子38ページの表を参照のこと。

専攻科目は履修する年次が下記の表のとおり定められている。「学生便覧別冊・開講科目」をよく読み、正しく履修すること。

２年次	必修科目	英米文学演習（入門）　同（初級）　英作文演習（初級）　英会話演習（初級）
	準必修科目	英文法演習　英語学入門　英語学概論　英語音声学演習　英文学史Ⅰ・Ⅱ
	演習講義科目	英語圏テキスト講読Ⅰ・Ⅱ　英作文演習（中級）　英会話演習（中級）
３年次	必修科目	対照表現学演習Ⅰ・Ⅱ
	準必修科目	米文学史Ⅰ・Ⅱ　英米文学演習（中級）　同（上級）
	演習講義科目	特別演習（英米文学研究方法論）Ⅰ・Ⅱ　同（言語研究方法論）Ⅰ・Ⅱ　英作文演習（上級）　英会話演習（上級）
４年次	必修科目	卒業論文
	演習講義科目	特別演習（作品分析）Ⅰ・Ⅱ　同（言語資料分析）Ⅰ・Ⅱ
３～４年次	特殊講義科目	英文学特殊講義Ⅰ～Ⅷ　英語学特殊講義Ⅰ～Ⅷ 英語文法論　英米事情

なお、Ⅰ・Ⅱまたは（初級）・（中級）・（上級）の区別がある授業科目は、留学などの特別な事情がないかぎり、この順序で履修すること。

3）準必修科目について

準必修科目は選択科目の一部であるが、専攻しようとする領域に応じ、どうしても学んでおかなければならない内容の授業科目が含まれている。具体的には、語学を専攻する場合、英文法演習と英語学入門および概論が、文学を専攻する場合、英・米の文学史と英米文学演習（中級）・（上級）がこれにあたる。このため、専攻する領域が決まっていない場合、準必修科目は可能な限り履修しておくことが望ましい。

4）英語音声学演習および英作文・英会話演習について

英語音声学演習および英作文演習（中級）・（上級）、英会話演習（中級）・（上級）は、専攻しようとする領域にかかわりなく、英語の運用能力を高めるために履修が望まれる科目である。また、卒業論文を書く際の表現力を身に付けるためにも、これらの科目は積極的に履修しておくこと。

5）演習講義科目と特殊講義科目について

演習講義科目のうち、特別演習は、卒業論文作成の準備段階となる科目である。したがって、語学系の論文を書く学生は、特別演習（言語研究方法論）Ⅰ・Ⅱと同（言語資料分析）Ⅰ・Ⅱを、文学系の卒論を書く学生は、特別演習（英米文学研究方法論）Ⅰ・Ⅱと同（作品分析）Ⅰ・Ⅱを、３・４年次において必ず履修しなくてはならない。また、他の演習講義科目と特殊講義科目も、専攻しようとする分野に合わせてできるだけ多くを履修すること。余剰単位は自由選択科目として認定される。

3．教職免許取得のための「指定科目」について

英文学史Ⅰ・Ⅱ、英語学入門，英作文演習（中級）、英会話演習（中級）ならびに英米事情は、必修科目ではないが、教職免許取得のために必要な「教科に関する科目」のなかの「指定科目」となっているので、教職免許取得希望者は履修もれのないように注意すること。

4．コア科目の外国語の履修について

コア科目の外国語の履修は言語文化学科の履修規程に従うが、本コースの学生は英語を10単位以上、フランス語・ドイツ語・中国語のいずれかを10単位以上履修しなければならない。また次の①、②の点に注意すること。

① 英語のうち中級英語は、前・後期のいずれかに必ずＳ／Ｗ（スピーキング／ライティング）のジャンル指定があるクラスを履修すること。

② 実践的な英語力を養うため、英語は必修の10単位に加え、上級英語または上級ジャンル別英語を必ず４単位以上履修すること。

コア科目の外国語単位は余分に取得しても自由選択科目として認定されるので、所定の単位数にこだわらず積極的に履修すること。また、上記以外の外国語にも意欲的に取り組むことが望ましい。

5．学科共通科目の履修について

英語圏言語文化コースを志望する学生は、学科共通科目のうち英語圏言語文化概論をかならず履修しておくこと。また、英語学を専攻する可能性のある学生は，１年次に言語学概論を履修しておくこと。その他の学科共通科目も、多様な言語文化についての知識を得るために幅広く履修することが望ましい。

＊英語圏言語文化コース以外の学生の受講について

英語圏言語文化コースの授業科目のうち、一部の演習科目をのぞくすべての科目は、他学科・他コースの学生にも受講の機会がある。ただし、履修年次が定められており、隔年開講のクラスもあるので、毎年すべてを受講できるわけではない。受講に当たっては次の三つの点に注意すること。

1．英語圏言語文化コース以外の学生が受講できる科目およびクラスについては、web上のシラバスで受講条件などを必ず確認した上で受講すること。これらのなかには隔年開講のものもあるので、特に英語の教職免許取得希望者は教職指定科目の履修もれがないように注意すること。

2．各科目の履修年次が次のように定められているのでこれを守って履修すること。

□1 年 次　　英 文 法

□2 年 次　　英語学入門、英語学概論、英文法演習、英文学史Ⅰ・Ⅱ、英米文学演習（入門）、同（初級）、英会話演習（初級）、同（中級）、英作文演習（初級）、同（中級）

□3～4年次　　英会話演習（上級）、英作文演習（上級）、米文学史Ⅰ・Ⅱ、英文学特殊講義Ⅰ～Ⅷ、英語学特殊講義Ⅰ～Ⅷ、英米事情、等

3．授業科目のなかには、指定の科目を前もって履修していることが受講の条件となっているものがある（例：英語学概論は英語学入門を既習のこと）。これらの条件は授業科目ごとに『開講科目』に記載されている。

その他の注意事項

1．教職指定科目のうち、以下のものは他学科・他コース向けのクラスが隔年で開講される。同じ科目でも時間割に＊を付していないクラスは受講できないので注意すること。

英作文演習（初級）・（中級）／英会話演習（初級）・（中級）

2．受講者が多い場合［特に、英会話演習（初級）、同（中級）、英作文演習（初級）、同（中級）、英米文学演習（入門）、同（初級）は30名が上限］は、教職免許取得希望者の受講を優先する。

仏語圏言語文化コース

1．コースの概要

本コースでは、1学年ほぼ10名前後の学生に対して、フランス人教師1名を含む4人の専任教員と、さらに非常勤講師の教員も加わって、密度の濃い少人数教育が行われる。本コースがめざすのは、フランス語で営まれている様々な言語文化やフランス語圏の社会事情に深い理解をもち、さらにはヨーロッパの他の言語文化、とくにドイツ語圏言語文化にも関心を抱く研究者や社会人を育成すること、また身につけた専門的・語学的知識とその実践的運用能力によって、国際化した現代社会で活躍できる人材を養成することである。

2．全般的な注意

1年次から2年次にかけては、語学力の養成と基礎的な知識の習得を行う。更に、2年次から4年次にかけては、段階的に各自の専門研究を深めて行く。4年次に準備する卒業論文は大学4年間の学習と研究の集大成となるべきものである。

3．コア科目の外国語と学科共通科目の履修について

1年次にはフランス語初級の「文法」「演習」「応用」の3クラスをセットで、2年次にはフランス語中級のクラスを2クラスともに履修することが望ましい。フランス人の教師による「フランス語初級会話」や「フランス語上級会話」が開設されていることにも留意してほしい。また、学科共通科目の「ヨーロッパ言語文化論」は仏語圏を中心としたヨーロッパの言語文化に関する講義であり、これを履修することが望ましい。

なお、本コースに進学を希望するほとんどの学生にとってフランス語は未修外国語であるので、外国語の履修については、少なくとも1年次にはフランス語と英語だけに努力を集中することをすすめる。しかし2年次以降は、フランス語以外の未修外国語にも積極的に挑戦してほしい。

4．専攻科目について

1）進学前の1年次から履修可能な科目として、「西欧社会文化論Ⅰ」が用意されている。1年次での履修が望ましい。2年次は、通年でフランス人の教師による「仏作文」、「仏会話」でフランス語力を増進させると共に、日本人教師による「仏語圏言語文化論Ⅰ」（前期）「仏語圏言語文化論Ⅱ」（後期）などで専門研究への導入を行い、3年次以降はフランス語を使いこなして、文化、言語、文学、社会などのフランス語圏の社会文化の専門研究を深める。

2）専攻科目の学年指定については、原則としてこれに従うこと。

5．教職免許について

フランス語での教育実習を行うことに協力を依頼できる学校を見つけることがきわめて困難であり、さらに、わが国の中等教育において、フランス語の教育を実践する機会がはなはだ乏しい状況にあるため、フランス語の教職免許の取得を希望する場合は、必ずそれと合わせて、英語あるいは国語の教職免許を取得し、教育実習はフランス語以外の科目で行うこと。そのためには1年次の時から他科目の教職免許取得のために必要な単位を計画的に取るようにとくに注意が必要である。

なお、取得希望の科目の教科教育法の単位を3年次に取得しないと、4年次で教育実習に参加できないので注意すること。

言語文化学科［履修コース］教育課程及び履修方法

授業科目	単位数	学年

◎学科共通

●コア科目	40	
○文理融合リベラルアーツ	18	1～4
○基礎講義		1～4
○基礎ゼミ		1
○総合科目		1～4
○情報		1
○外国語	20	1～4
○スポーツ健康実習	2	1
●学科共通専攻科目(選択)	8	
日本言語文化概論	2	1
英語圏言語文化概論	2	1
アジア比較言語文化論	2	1
ヨーロッパ言語文化論	2	1
中国古典文学史(先秦～唐)	2	1
同 (宋～清)	2	1
言語学概論	4	1～4
●自由に選択して履修する単位	26	

◇日本語・日本文学履修コース

○履修コース必修科目	20	
日本古典文学史論(上代)	2	1～3
同 (中古)	2	1～3
同 (中世)	2	1～3
同 (近世)	2	1～3
日本近代文学史論(近代)	2	1～3
同 (現代)	2	1～3
卒業論文	8	4
○履修コース選択科目	20	
(以下の科目から4単位以上修得)		
日本語構造論概論	2	1
日本語構造論特殊講義(文章語)Ⅰ	2	2～4
同 (文章語)Ⅱ	2	2～4
日本語構造論特殊研究	2	1～3
日本語史特殊講義(古代語)Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
日本語史特殊講義(近代語)Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
日本語史特殊研究(古代語)	2	2～3
同 (近代語)	2	2～3
日本語文章表現論	2	2～3
日本語音声表現論	2	2～3
日本語コーパス情報処理	2	2～4
日本語位相論	2	2～4
日本語文章分析論	2	2～4
(以下の科目から2単位以上修得)		
日本古典文学論基礎演習Ⅰ	2	2
同 Ⅱ	2	2
同 Ⅲ	2	2
同 Ⅳ	2	2
日本語構造論基礎演習	2	2
日本語史基礎演習	2	2
(以下の科目から6単位以上修得)		
日本古典文学論演習(上代)Ⅰ	2	3
同 (上代)Ⅱ	2	3
日本古典文学論演習(中古)Ⅰ	2	3
同 (中古)Ⅱ	2	3
日本古典文学論演習(中世)Ⅰ	2	3
同 (中世)Ⅱ	2	3
日本古典文学論演習(近世)Ⅰ	2	3
同 (近世)Ⅱ	2	3
日本近代文学論演習(近代)Ⅰ	2	3
同 (近代)Ⅱ	2	3
日本近代文学論演習(現代)Ⅰ	2	3
同 (現代)Ⅱ	2	3
日本語構造論演習Ⅰ	2	3
同 Ⅱ	2	3
日本語史演習(古代語)Ⅰ	2	3
同 Ⅱ	2	3
日本語史演習(近代語)Ⅰ	2	3
同 Ⅱ	2	3
(以下の科目から2単位修得)		
日本文学研究指導	2	4
日本語学研究指導	2	4
(以下の科目から6単位以上修得)		
日本古典文学論特殊研究(上代)	2	1～4
同 (中古)	2	2～4
同 (中世)	2	2～4
同 (近世)	2	2～4
同 (韻文)	2	2～4
同 (散文)	2	2～4
同 (総合)	2	2～4
日本古典文学論講読(上代)	2	1～3
同 (中古)	2	1～3
同 (中世)	2	1～3

同 (近世)	2	1～3
同 (総合)	2	1～3
日本上代文学論特殊講義Ⅰ	2	2～4
日本上代文学論特殊講義Ⅱ	2	2～4
日本中古文学論特殊講義Ⅰ	2	2～4
日本中古文学論特殊講義Ⅱ	2	2～4
日本中世文学論特殊講義Ⅰ	2	2～4
日本中世文学論特殊講義Ⅱ	2	2～4
日本近世文学論特殊講義Ⅰ	2	2～4
日本近世文学論特殊講義Ⅱ	2	2～4
日本古典文学論特殊講義(韻文)Ⅰ	2	2～4
日本古典文学論特殊講義(韻文)Ⅱ	2	2～4
日本古典文学論特殊講義(散文)Ⅰ	2	2～4
日本古典文学論特殊講義(散文)Ⅱ	2	2～4
日本古典文学論特殊講義(総合)Ⅰ	2	2～4
日本古典文学論特殊講義(総合)Ⅱ	2	2～4
古典文献情報処理	2	2
日本古典文学作品論	2	2～4
日本古典文学表現論	2	2～4
日本古典文献解析	2	2～4
日本近代文学論特殊研究(近代)	2	2～4
同 (現代)	2	2～4
同 (詩歌)	2	2～4
同 (文学理論)	2	2～4
日本文学概説	2	1
日本近代文学論講読(近代)	2	1～3
同 (現代)	2	1～3
同 (総合)	2	1～3
日本近代文学論特殊講義Ⅰ	2	2～4
日本近代文学論特殊講義Ⅱ	2	2～4
日本現代文学論特殊講義Ⅰ	2	2～4
日本現代文学論特殊講義Ⅱ	2	2～4
日本近現代文学論特殊講義(総合)Ⅰ	2	2～4
日本近現代文学論特殊講義(総合)Ⅱ	2	2～4
異言語文化受容論	2	2～4
書道Ⅰ	2	1～4
書道Ⅱ	2	1～4
(他コース開講科目)		
中国語古典文献講読入門	2	
中国語古典文献講読基礎	2	
中国語講読	2	
中国文化論	2	
中国古典文学概論	2	
英文法	4	
英語学入門	2	
英文学特殊講義Ⅰ	2	
同 Ⅱ	2	
同 Ⅲ	2	
同 Ⅳ	2	
同 Ⅴ	2	
同 Ⅵ	2	
同 Ⅶ	2	
同 Ⅷ	2	
英米事情	2	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	
独文学特殊講義	4	
○履修コース専攻科目・関連科目	10	

※関連科目は39ページ

◇中国語圏言語文化履修コース

○履修コース必修科目	24	
中国現代文学史	2	2
中国文学古典講読	2	2
中国語学概論	2	2
中国語コミュニケーション・スキル	2	2
中国文化論	2	2
中国事情	2	2
中国語ヒアリング演習	2	3～4
中国語作文基礎演習	2	3～4
卒業論文	8	4
○履修コース選択科目	26	
(以下の科目から2単位以上修得)		
中国古典文学特別演習	2	4
中国古典語学特別演習	2	4
中国現代文学特別演習	2	4
中国現代語学特別演習	2	4
(以下の科目から24単位以上修得)		
中国古典文献講読入門	2	1
中国古典文献講読基礎	2	1
中国語ヒアリング基礎	2	1
中国文学古典演習	2	2
中国語講読	2	2
日中対照言語学	2	2
中国古典文学概論	2	3～4
中国文学講義演習	2	3～4
中国古典詩講義演習	2	2～4
中国古典小説演習	2	2～4
中国古典散文演習	2	2～4
中国近代作家論	2	3～4
中国現代作家論	2	2～4
中国近代作品論	2	3～4
中国現代作品論	2	2～4

中国語圏比較文学論	2	3～4
中国語学文献講読	2	3～4
中国語学講義演習	2	3～4
中国語学講読演習	2	3～4
中国古典語学講義演習	2	2～4
中国古典語学講読演習	2	2～4
中国語統語論	2	3～4
中国語文法論	2	3～4
中国語学演習	2	3～4
中国現代語学演習	2	3～4
中国語文法演習	2	3～4
中国語学基礎演習	2	2～4
中国言語文化演習	2	3～4
中国語上級演習	2	3～4
中国語作文応用演習	2	3～4
中国語文章表現基礎演習	2	2～4
中国語文章表現応用演習	2	3～4
中国語会話演習	2	3～4
中国文学特殊講義	2	3～4
中国語学特殊講義	2	3～4
(他コース開講科目)		
日本語構造論概論	2	
日本文学概説	2	
英文法	4	
英語学入門	2	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	
独文学特殊講義	4	
第二言語教授法研究	2	

◇英語圏言語文化履修コース

×のついた科目以外は英語圏言語文化コース以外の学生でも受講可能。ただし、受講できるクラスが年により異なる（毎年「時間割」に＊印で指定）ので、「時間割」をよく見て受講すること。詳しくは「英語圏言語文化コース以外の学生の受講について」(p. 34) を参照。

○履修コース必修科目	20	
英米文学演習（入門）	2	2
同 (初級)	2	2
英作文演習(初級)	2	2
英会話演習(初級)	2	2
×対照表現学演習Ⅰ	2	3
×同 Ⅱ	2	3
×卒業論文	8	4
○履修コース選択科目	30	
(以下の科目から14単位以上修得)		
英文法	4	1
英語学入門	2	2
英語学概論	2	2
英文法演習	2	2
×英語音声学演習	2	2
英文学史 Ⅰ	2	2
同 Ⅱ	2	2
米文学史 Ⅰ	2	3
同 Ⅱ	2	3
×英米文学演習(中級)	2	3
×同 (上級)	2	3
(以下の科目から12単位以上修得)		
×英語圏テキスト講読Ⅰ	2	2
×同 Ⅱ	2	2
×特別演習(英米文学研究方法論)Ⅰ	2	3
×同 Ⅱ	2	3
×特別演習(言語研究方法論)Ⅰ	2	3
×同 Ⅱ	2	3
×特別演習(作品分析)Ⅰ	2	4
×同 Ⅱ	2	4
×特別演習(言語資料分析)Ⅰ	2	4
×同 Ⅱ	2	4
英米文学演習(作品作家研究)	2	2～4
英作文演習(中級)	2	2
同 (上級)	2	3
英会話演習(中級)	2	2
同 (上級)	2	3
(以下の科目から4単位以上修得)		
英文学特殊講義 Ⅰ	2	3～4
同 Ⅱ	2	3～4
同 Ⅲ	2	3～4
同 Ⅳ	2	3～4
同 Ⅴ	2	3～4
同 Ⅵ	2	3～4
同 Ⅶ	2	3～4
同 Ⅷ	2	3～4
英語圏言語文化論	2	2～4
英語学特殊講義 Ⅰ	2	3～4
同 Ⅱ	2	3～4
同 Ⅲ	2	3～4
同 Ⅳ	2	3～4
同 Ⅴ	2	3～4
同 Ⅵ	2	3～4
同 Ⅶ	2	3～4
同 Ⅷ	2	3～4
英語文法論	2	3～4

英米事情	2	3～4
第二言語教授法研究	2	3～4
(他コース開講科目)		
日本文学概説	2	3～4
中国文化論	2	3～4
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	3～4
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	3～4
独文学特殊講義	4	3～4

◇仏語圏言語文化履修コース

○履修コース必修科目	14	
仏語圏言語文化論Ⅰ	2	2
仏語圏言語文化論Ⅱ	2	2
仏語言語文化研究指導	2	4
卒業論文	8	4
○履修コース選択科目	26	
基礎仏作文演習	2	2
中級仏作文演習	2	2
基礎仏会話演習	2	2
中級仏会話演習	2	2
上級仏会話演習	4	3～4
基礎仏語学演習	2	3
中級仏語学演習	2	3
上級仏語学演習	4	4
近代仏文学演習	4	3～4
現代仏文学演習	4	3～4
近代仏文学特殊講義	4	3～4
現代仏文学特殊講義	4	3～4
仏文学特殊研究	2	2～4
仏文学特別演習	2	2～4
仏語学特殊講義	4	3～4
仏語学特殊研究	4	3～4
応用仏語学演習Ⅰ	2	3～4
応用仏語学演習Ⅱ	2	3～4
欧州文化論Ⅰ	2	1～4
欧州文化論Ⅱ	2	1～4
西欧社会文化論Ⅰ	2	1～4
西欧社会文化論Ⅱ	2	1～4
フランス社会文化論Ⅰ	2	1～4
フランス社会文化論Ⅱ	2	1～4
独文学演習	4	3～4
独文学特殊講義	4	3～4
(他コース開講科目)		
日本近代文学史論(近代)	2	
同 (現代)	2	
中国文化論	2	
中国事情	2	
英文法	4	
英語学入門	2	
第二言語教授法研究	2	
○履修コース専攻科目・関連科目	10	

○関連科目		
哲学基礎論	2	
倫理学基礎論	2	
形象分析学基礎論	2	
比較文化史	2	
比較社会史	2	
自然と人間	2	
人間と空間	2	
人間科学論	2	
人間科学方法論	2	
人間と社会	2	
人間と発達	2	
人間と情報	2	
日本文化史概論	2	
法学通論	4	
法学概論	2	
政治学通論	4	
政治学概論	2	
経済学通論	4	
経済学概論	2	
社会学通論	4	
社会学概論	2	
ギリシャ語	4	
ラテン語	4	
スペイン語	4	
イタリア語	4	
哲学通論Ⅰ	2	
哲学通論Ⅱ	2	
倫理学通論Ⅰ	2	
倫理学通論Ⅱ	2	

人間社会科学科

人間社会科学科

1．学科の概要

本学科は、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていける人材を育成するための教育と研究を行う。本学科では、社会学、教育科学、心理学を中心に、哲学・思想、歴史学、文化人類学、行財政学などの多彩な授業科目があり、学生が、こうした幅広い視点から人間を捉え、人間に対する総合的な理解を得ることを目指している。

同時に本学科の学生は、２年次前期から３つの専門コースのいずれかまたはグローバル文化学環に進む。専門コースに進学した学生は、それぞれの分野を専門的に学び、それに関する深い知識と研究手法を身につけることになる。

2．学科共通の注意事項

１年次の終りに進学振り分けがあるが、それまでに各コースの教員の授業を積極的に履修し、どのコースを志望するかを固めておいてほしい。

3．学科共通科目

「人間科学論」「人間科学方法論」「人間と社会」「人間と発達」「人間と情報」の中から、４科目以上を履修する必要がある。「人間と社会」は社会学コース、「人間と発達」は教育科学コース、「人間と情報」は心理学コースの概要をつかむのによい科目である。

4．進学振り分け

各コースの基本受入数は、学科の申請者の総数を母数として、以下の比率によって計算する。　社会学コース：教育科学コース：心理学コース＝７：１８：１５

※進学希望コース申請の際、進学希望者がこの基本受入数の120％を超えたコースにおいては、人数の調整を行うことがある。その場合、第一希望のコースに進学できない者は、第二希望以下のコースに回ることになる。調整の方法は以下の通りである。

社会学コース　このコースを第一希望とする者については、１年前期の「人間と社会」の成績評価、および希望コース申請時に提出する小論文（問題意識や関心などについて述べたもの）の評価によって受け入れ者を決定する。第二希望以下の者については、「人間と社会」の成績評価を中心に、他の適切な方法を必要に応じて併用しながら受け入れ者を決定する。

教育科学コース　１年前期開講の「人間と発達」の成績評価、およびコース希望時に提出する小論文（問題意識や関心などについて述べたもの）の評価を、総合的に判定し、受け入れ者を決定する。第二希望以下の者については、「人間と発達」の成績評価を中心に、判定する。

心理学コース　１年後期までの２つの科目（「人間と情報」「人間科学方法論」）における評価を用いる。これは、このコースを第一希望とする者だけでなく、第二希望以下の者についても同様である。

5．グローバル文化学環

人間社会科学科からグローバル文化学環に進学することができる。詳細はグローバル文化学環のページを参照のこと。

社会学コース

1．ねらい

社会学とは、理論的ないし実証的な方法によって、人間の行動と意識の社会的な側面を研究する学問です。このコースは、人間の社会生活をめぐる問題意識を育て、その問題の背景や原因を分析し、問題の解決にむけて自主的・積極的に取り組む能力を身につけることをめざしています。本コースで学んだ知識をもとに、マスコミ関係、官公庁、国内・海外の調査機関、一般企業の人事・広報、コンピュータ関連企業などで活躍することができます。また、大学院へ進学し、より専門的な知識を身につける道も開かれています。旺盛な好奇心と意欲に満ち、社会を観る新しい視点を求める学生の進学を期待しています。

2．何を学ぶ

1)　このコースでは、社会生活のなかで営まれるさまざまな活動、人と人との関係、またそれらの織りなす社会全体の仕組みと変化を学ぶとともに、それとの関連で個人のパーソナリティや文化を研究の対象としています。

具体的には、「自分探し（アイデンティティ）」、家族、マス・メディア、コミュニケーション、企業、職業、消費、非行・犯罪、余暇、交通、青年文化、学校、高齢社会、福祉、地域開発、都市、民族など幅広い領域に広がっています。コース進学後３年のうちに、特定の領域を定めてより深く習得し、その成果を卒業論文に反映させることが期待されています。

2)　本コースの専任教員は多くはありませんが、学外からの非常勤講師も加え、多彩な講義や演習がおかれています。具体的には、現代社会論、現代生活論、ジェンダー論、社会問題論、社会意識論、社会政策論、比較社会論、文化人類学特殊講義など、社会学のさまざまな領域について深く学ぶことができます。

3)　本コースは、理論や文献の学習にとどまらず、実証的な研究スタイルを重視しています。現実の社会を分析し、その方法を学ぶ科目として、社会調査法を必修として設けています。

3．履修にあたっての全般的な注意

社会学研究の特徴のひとつは、歴史学、哲学、教育科学、文化人類学、地理学、心理学などの領域で開拓された多様な方法論を活用して、人間の社会的行為と社会の仕組みにかかわる問題にアプローチしていくところにある。

したがって、社会学コースの専門科目だけでなく、他学科・他コースの専門科目も視野に入れて履修計画をたてること。

4．コア科目について

所定の最低単位にとらわれず、問題関心の焦点を定めて広く学んでほしい。

外国語は、英語のほかに未履修の外国語を積極的に学ぶこと。

5．専攻科目について

専攻科目は、①学科共通専攻科目、②履修コース必修科目、③履修コース選択科目、④履修コース指定科目の４カテゴリーから構成されている。

①　学科共通専攻科目は一年次のうちに５つの科目から４科目８単位以上を履修しておくこと。

「人間と社会」は必ず履修すること。

②　履修コース必修科目は履修年次が以下のように決められているので、それに従うこと。

社会学研究指導Ⅰ	３年次（２単位）
社会学研究指導Ⅱ	４年次（２単位）
卒業論文	４年次（８単位）
社会調査法	可能なかぎり３年次までに履修すること。（４単位）

また、必修ではないが、４年次には原則として卒業論文の指導教員の演習を履修すること。

③　履修コース選択科目は社会学諸分野の専門科目を中心としており、概論（～論）・特殊講義（～特殊講義）・演習（～演習）で構成されている。これらの科目は、指定された方法により合計32単位以上履修しなければならない。

まず、概論によって基本的な認識を持ち、特殊講義によってその分野の個別的・具体的な内容を把握し、演習によってさらに内容を深め応用力を養うという体系をとっているので、この順番に履修することが望ましい。

指定された概論・特殊講義は、あわせて５科目10単位以上、演習は16単位以上を履修しなければならない。また、人間社会科学科における他コースの概論から３科目６単位以上履修すること。詳細は別表参照。

④　上の③に加えてさらに、履修コース指定科目として、「履修コース選択科目」の科目一覧の中から自由に選んで12単位以上履修すること。

したがって、「履修コース選択科目」の一覧からは、③の履修コース選択科目として10単位＋16単位＋６単位＝32単位、④の履修コース指定科目として12単位、合計で44単位以上履修しなければならないので注意すること。

教育科学コース

1．コースにおける学習の方針

教育科学研究の特徴のひとつは、哲学、歴史学、社会学、教育科学、文化人類学、地理学、心理学など、多様な方法論を用いて人間の発達にかかわる問題にアプローチしていくところにある。したがって、教育科学コースの専攻科目だけでなく、他学科・他コースの科目も視野に入れて履修計画を立てること。

2．コア科目について

所定の最低単位にとらわれず、広く、ただし照準を定めて学んでほしい。

外国語は英語のほかに未修の外国語も積極的に学ぶこと。その際、同一の言語を２年以上にわたって履修することが望ましい。

3．専攻科目について

専攻科目は、①学科共通科目（選択）、②専攻科目（必修）、③専攻科目（選択）の３つから構成されている。

1）学科共通科目（選択）は１年次のうちに、５つの科目から４科目８単位以上を履修しておくこと。とくに、「人間と発達」は必ず履修しておくこと。

2）専攻科目（必修）は履修年次を以下のように指定してあるのでそれに従うこと。

教育実地研究	１年
教育科学研究指導Ⅰ	３年
教育科学研究指導Ⅱ・卒業論文	４年

3）専攻科目（選択）は教育科学諸分野の専門科目を中心としており、概論・特殊講義・演習で構成されている。まず、概論によって基本的な認識をもち、特殊講義によってその分野の個別的・具体的な内容に触れ、演習によってさらに深めるという体系をとっているので、この順番に履修すること。概論を履修せずにいきなり演習に臨むというようなことは望ましくない。また、特殊講義は専門的な内容も含まれるので、特に１年次で履修する場合は興味関心のある内容のものに限定し、十分に予習復習しながら履修すること。

概論は10科目の中から５科目10単位以上、特殊講義も10単位以上、演習は16単位以上を履修しなければならない。演習は近似する分野二つを２年間続けて履修することが望ましい。

コース指定科目としては、専攻科目（選択）の中から４単位以上履修すること。

このほか人間社会科学科の他コースの科目の「ジェンダー論」「現代社会論」「教育心理学概論」「社会心理学概論」「発達心理学概論」「臨床心理学概論」「認知心理学概論」の中から３科目６単位以上を履修しなければならない。

4．教職免許などについて

教職免許については「教育職員免許法に関する説明及び科目認定一覧表」を参照。

教育科学コースの履修科目の中には、博物館学芸員資格取得用の科目と社会教育主事資格取得用の科目も含まれているので、学生便覧の該当ページを参照のこと。

心理学コース

1．コース紹介

心理学は、実証的な方法によって、人間などの行動を観察・分析し、人間の心的な活動の仕組みや働きを解明しようとする学問である。本コースは、学生に、心理学に関する幅広い知識と、心理学研究に必要なテクニックを学ばせるとともに、人間に関わる事象への深い理解と科学的な見方、更に、どのような問題に対しても論理的、分析的に考えられる力を身につけさせたいと考えている。

授業科目には、３つの柱がある。第１に、心理学に関する基礎知識を学ぶための概論や特殊講義などの科目である。第２に、そうした講義科目の内容を深めるための演習、第３に、心理学研究のテクニックを習得するための実験演習や研究法などの科目がある。そして、４年次には、こうして身につけた知識とテクニックを使い、自分自身の関心を持ったテーマについて、研究を計画・実施し、卒業論文を執筆する。

本コースは、こうして学習した専門的能力を生かし、大学、官公庁、各種施設、企業などで、研究者や実践家などとして活躍できる人材の育成を目指している。

2．全般的注意

心理学は、人文科学、社会科学、自然科学の境界領域としての性質を有している。どちらかというと、自然科学としての色彩が強いかもしれない。この点を自覚して、学内の広きにわたって、他学部、他学科の科目も積極的に履修することが望まれる。

3．コア科目

広く、ただし照準を定めて学んでほしい。

4．専攻科目

学科共通科目　５科目中４科目以上の選択必修であるが、「人間科学方法論」と「人間と情報」は、必ず履修すること。この２つの科目は、進学振り分けの際、その評価が対象となるので、心理学コース進学希望者は、１年前期に必ず履修すること。

概　　論　１年次からの履修が望ましい。

心理学基礎演習　「理論」は、２年前期用の科目、「応用」は、２年後期用の科目である。この２つの科目は、心理学コース進学者に限られる。

心理学基礎実験演習　「Ⅰ」は２年前期用の科目、「Ⅱ」は２年後期用の科目である。心理学コース進学者は必ず履修すること。なお、心理学コース進学者を優先するが、それ以外の学生の履修も認めることがある。

心理学応用実験演習Ⅰ、Ⅱ　３年前期・後期用の科目である。心理学コース進学者に限られる。

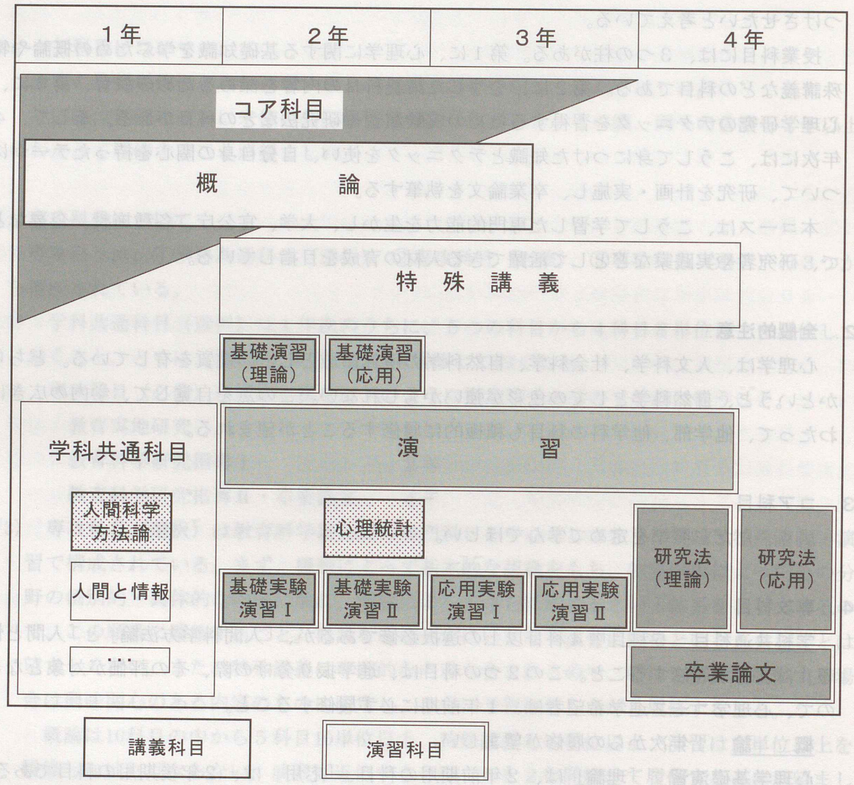
卒業論文　執筆にあたって、被験者を必要とする実験や調査を行う場合には、心理学基礎実験演習Ⅰ、Ⅱおよび心理学応用実験演習Ⅰ、Ⅱの履修を終えていなければならない。

5．進学振り分け対象科目

「人間と情報」、「人間科学方法論」の２科目である。

なお、心理学コースのカリキュラムの流れは、下の図を参照すること。

心理学コース・カリキュラム



人間社会科学科［履修コース］教育課程及び履修方法

授業科目	単位数	学年
◎学科共通		
●コア科目	３０	
○文理融合リベラルアーツ	18	１～４
○基礎講義		１～４
○基礎ゼミ		１
○総合科目		１～４
○情報		１
○外国語	１０	１～４
○スポーツ健康	２	１
●学科共通専攻科目(選択)	８	
人間科学論	２	１
人間科学方法論	２	１
人間と社会	２	１
人間と発達	２	１
人間と情報	２	１
●自由に選択して履修する単位	２６	
◇社会学履修コース		
○履修コース必修科目	１６	
社会調査法	４	２～４
社会学研究指導Ⅰ	２	３
同　Ⅱ	２	４
卒業論文	８	４
○履修コース選択科目	３２	
(以下の科目から10単位以上修得)（ただし※の科目［生活科学部の開講科目］を４単位まで含めることができる）		
ジェンダー論	２	１～４
現代社会論	２	１～４
現代生活論	２	１～４
社会意識論	２	２～４
比較社会論	２	２～４
社会政策論Ⅰ	２	１～４
同　Ⅱ	２	２～４
社会問題論	２	２～４
社会調査の設計と実施	２	１～４
教育社会学概論	２	１～４
教育社会学特殊講義	２	１～４
学校社会学特殊講義	２	１～４
文化人類学概論	２	１～４
文化人類学特殊講義	２	１～４
民族誌学特殊講義	２	１～４
比較社会政策論	２	２～４
※社会福祉学	２	２～４
※家族社会学総論	２	２～４
※家族社会学各論	２	２～４
※老人福祉論	２	２～４
※地域社会論	２	２～４
※生涯福祉論	２	２～４
※児童福祉論	２	２～４
(以下の科目から16単位以上修得)		
ジェンダー論演習Ⅰ	２	３～４
同　Ⅱ	２	３～４
現代社会論演習Ⅰ	２	３～４
同　Ⅱ	２	３～４
社会保障論演習Ⅰ	２	３～４
同　Ⅱ	２	３～４
社会政策論演習Ⅰ	２	２～４
同　Ⅱ	２	２～４
現代生活論演習Ⅰ	２	３～４
同　Ⅱ	２	３～４
社会意識論演習Ⅰ	２	３～４
同　Ⅱ	２	３～４
教育社会学演習	４	３～４
学校社会学演習	４	３～４
文化人類学演習	４	３～４
民族誌学演習	４	３～４
(以下の科目から６単位以上修得)		
教育思想概論	２	１～４
教育史概論	２	１～４
教育行財政学概論	２	１～４
教育方法学概論	２	１～４
教育課程概論	２	１～４
学校臨床学概論	２	１～４
教育開発概論	２	１～４
生涯学習概論	２	１～４
博物館学概論	２	２～４
教育心理学概論	２	１～４
社会心理学概論	２	１～４
発達心理学概論	２	１～４
臨床心理学概論	２	１～４
認知心理学概論	２	１～４
○履修コース指定科目	１２	

◇教育科学履修コース

○履修コース必修科目	14	
教育実地研究	2	1
教育科学研究指導Ⅰ	2	3
教育科学研究指導Ⅱ	2	4
卒業論文	8	4
○履修コース選択科目	42	
(以下の科目から10単位以上修得)		
教育思想概論	2	1～4
教育史概論	2	1～4
教育社会学概論	2	1～4
文化人類学概論	2	1～4
教育行財政学概論	2	1～4
教育方法学概論	2	1～4
教育課程概論	2	1～4
学校臨床学概論	2	1～4
教育開発概論	2	1～4
生涯学習概論	2	1～4
博物館学概論	2	2～4
教育科学概論Ⅰ	2	1～4
同 Ⅱ	2	1～4
(以下の科目から10単位以上修得)		
教育人間学特殊講義	2	1～4
教育思想特殊講義	2	1～4
教育史特殊講義	2	1～4
教育史料分析特殊講義	2	1～4
教育社会学特殊講義	2	1～4
学校社会学特殊講義	2	1～4
文化人類学特殊講義	2	1～4
民族誌学特殊講義	2	1～4
教育行財政学特殊講義	2	1～4
教育政策科学特殊講義	2	1～4
教育方法学特殊講義	2	1～4
教授・学習過程特殊講義	2	1～4
教育課程特殊講義	2	1～4
授業研究特殊講義	2	1～4
学校経営特殊講義	2	1～4
学校臨床学特殊講義	2	2～4
青少年指導文化論特殊講義	2	2～4
教育開発特殊講義	2	1～4
比較教育特殊講義	2	1～4
生涯学習特殊講義	2	1～4
社会教育学特殊講義	2	1～4
博物館資料特殊講義	2	2～4
博物館活動特殊講義	2	2～4
教育科学特殊講義Ⅰ	2	1～4
同 Ⅱ	2	1～4
同 Ⅲ	2	1～4
同 Ⅳ	2	1～4
(以下の科目から16単位以上修得)		
教育人間学演習	4	3～4
教育思想演習	4	3～4
教育史演習	4	3～4
教育史料分析演習	4	3～4
教育社会学演習	4	3～4
学校社会学演習	4	3～4
文化人類学演習	4	3～4
民族誌学演習	4	3～4
教育行財政学演習	4	3～4
教育政策科学演習	4	3～4
教育方法学演習	4	3～4
教授・学習過程演習	4	3～4
教育課程演習	4	3～4
授業研究演習	4	3～4
学校経営演習	4	3～4
学校臨床学演習	4	3～4
青少年指導・文化論演習	4	3～4
教育開発演習	4	3～4
比較教育演習	4	3～4
生涯学習演習	4	3～4
社会教育学演習	4	3～4
博物館学演習	4	3～4
生涯学習施設論演習	4	3～4
教育科学演習Ⅰ	4	3～4
同 Ⅱ	4	3～4
社会教育計画Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
社会教育特講Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
社会教育課題研究	2	2～4
社会教育実習	2	2～4
博物館実習	3	4
(以下の科目から6単位以上修得)		
ジェンダー論	2	1～4
現代社会論	2	1～4
教育心理学概論	2	1～4
社会心理学概論	2	1～4
発達心理学概論	2	1～4
臨床心理学概論	2	1～4
認知心理学概論	2	1～4
○履修コース指定科目	4	

◇心理学履修コース

○履修コース必修科目	32	
教育心理学概論	2	1～2
社会心理学概論	2	1～2
発達心理学概論	2	1～2
臨床心理学概論	2	1～2
認知心理学概論	2	1～2
心理統計法	2	2
心理学基礎演習(理論)	2	2
同 (応用)	2	2
心理学基礎実験演習Ⅰ	2	2
同 Ⅱ	2	2
心理学応用実験演習Ⅰ	2	3
同 Ⅱ	2	3
卒業論文	8	4
○履修コース選択科目	28	
(以下の科目から18単位以上修得)		
(ただし、※の科目［生活科学部の開講科目］を8単位まで含めることができる)		
教育心理学特殊講義Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 Ⅳ	2	2～4
社会心理学特殊講義Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 Ⅳ	2	2～4
発達心理学特殊講義Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 Ⅳ	2	2～4
臨床心理学特殊講義Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 Ⅳ	2	2～4
認知心理学特殊講義Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 Ⅳ	2	2～4
教育心理学演習(基礎)	2	2～4
同 (理論)	2	3～4
同 (応用)	2	3～4
社会心理学演習(基礎)	2	2～4
同 (理論)	2	3～4
同 (応用)	2	3～4
発達心理学演習(基礎)	2	2～4
同 (理論)	2	3～4
同 (応用)	2	3～4
臨床心理学演習(基礎)	2	2～4
同 (理論)	2	3～4
同 (応用)	2	3～4
認知心理学演習(基礎)	2	2～4
同 (理論)	2	3～4
同 (応用)	2	3～4
リスクと人間行動(基礎)	2	1～4
同 (応用)	2	1～4
※心理統計法(理論)	2	3
※同 (実践)	2	3
※生活発達心理学	2	2
※教授心理学	2	2
※発達神経学	2	2
※障害心理学	2	2
※障害臨床学	2	2
※生活臨床学	2	2
※保育学	2	2
※教育発達学	2	2
※人格心理学	2	2
※発達社会文化論	2	3～4
※児童文化論	2	3～4
※発達理論	2	3～4
※人格発達論	2	3～4
※集団心理療法	2	3～4
※家族療法	2	3～4
※産業心理臨床	2	3～4
※発達社会心理学	2	3～4
※精神医学	2	3～4
※学校心理学	2	3～4
※発達過程論	2	3～4
※発達臨床特殊講義	2	3～4
※生涯発達心理学	2	3～4
※保育臨床学	2	3～4
※学校臨床学	2	3～4
(以下の科目から4単位以上修得)		
教育心理学研究法Ⅰ(基礎)	2	3～4
同 Ⅰ(応用)	2	3～4
同 Ⅱ(基礎)	2	3～4
同 Ⅱ(応用)	2	3～4
社会心理学研究法Ⅰ(基礎)	2	3～4
同 Ⅰ(応用)	2	3～4
同 Ⅱ(基礎)	2	3～4
同 Ⅱ(応用)	2	3～4
発達心理学研究法Ⅰ(基礎)	2	3～4
同 Ⅰ(応用)	2	3～4

同　Ⅱ（基礎）	2	3～4
同　Ⅱ（応用）	2	3～4
臨床心理学研究法Ⅰ（基礎）	2	3～4
同　Ⅰ（応用）	2	3～4
同　Ⅱ（基礎）	2	3～4
同　Ⅱ（応用）	2	3～4
認知心理学研究法Ⅰ（基礎）	2	3～4
同　Ⅰ（応用）	2	3～4
同　Ⅱ（基礎）	2	3～4
同　Ⅱ（応用）	2	3～4
（以下の科目から6単位以上修得）		
（他コース開講科目）		
ジェンダー論	2	1～4
現代社会論	2	1～4
現代生活論	2	1～4
社会意識論	2	2～4
比較社会論	2	2～4
教育思想概論	2	1～4
教育史概論	2	1～4
教育社会学概論	2	1～4
文化人類学概論	2	1～4
教育行財政学概論	2	1～4
教育方法学概論	2	1～4
教育課程概論	2	1～4
学校臨床学概論	2	1～4
生涯学習概論	2	1～4
博物館学概論	2	2～4
文化と心理	2	2～4

注）※の科目は生活科学部の開講科目であるが、文教育学部履修規程（学生便覧所収）において人間社会科学科の「関連科目（選択）」とされているものである。

芸術・表現行動学科

芸術・表現行動学科

1．学科の概要

芸術・表現行動学科では、現代社会の中で多様化している芸術及び身体の表現行動を総合的に捉えるために、理論的側面と実践的実証的側面との両面から研究する。具体的には、音楽や舞踊といった芸術表現と、両者に深く関わる人間行動とを、社会生活との密接なつながりの中で考えることを学び、人間の心と身体、感性と個性などの普遍的な問題への現代における対応を模索する。

2．進学振り分けの方法

本学科では、入学試験において、舞踊教育学と音楽表現とが独自の実技試験を行っているため、２年生前期より、入学時に選択したコースへの進学が可能となる。なお、新たにグローバル文化学環への進学を希望することも可能だが、進学の可否に関しては、面接等により決定される。

3．学科共通の注意事項

本学科は、１年次から舞踊教育学、音楽表現それぞれに基本的な実技科目や専門科目があり、さらに、幅広い分野への関連性からコア科目などにおいても、数多くの科目が必要なので、４年間を通じた履修の計画を組むことが望まれる。

舞踊教育学コース

1．コア科目について

1）本学科本コースは、専門の基礎として人文科学・自然科学両分野にわたる総合的な知識を必要とする。基礎講義等においては特定の分野に偏らず、広範囲の授業科目を履修することが望ましい。

2）コア科目は自由選択科目としても履修できるので、とくに教職を希望しているものはスポーツ健康実習の中から専門科目として開講されていない運動種目を積極的に履修することが望ましい。

2．専攻科目について

1）専攻科目は原則として指定された学年次に履修すること。とくに実技実習科目は人数を制限することがあるので、やむをえない場合をのぞいて学年指定を厳守すること。

2）専攻科目（選択）の中の「新体操」と「球技（基礎）」は、コア科目・スポーツ健康実習の単位に充てるので、１・２年次に必ず履修すること。

3）専攻科目の中には、毎年開講するとはかぎらないものがあるので、あらかじめ予定をたてて計画的に履修すること。

4）本学科本コースは３年後期から卒業論文に着手している。専攻科目（選択）における演習または実験演習の中から、２科目以上を履修すること。なお卒業論文の指導を希望する教員が担当する科目は、原則として３年前期に履修すること。これを履修していないものは、卒業論文にとりかかれない場合がある。

5）舞踊創作法実習（舞踊上演・制作）では、舞踊実技の集大成として舞台上での発表を行なう。これを履修する前に、専攻科目（選択）における舞踊の実技実習科目を積極的に履修しておくこと。

音楽表現コース

1．コースの概要と全般的な注意

音楽表現コースは、音楽学（音楽学・作曲）、演奏学（ピアノ、声楽）の専門分野に分かれているが、１、２年次では、ソルフェージュをはじめとして、音楽文化論、音楽行動論、ピアノ、声楽の基礎科目が必修となっている。各分野の専門科目は主として、３、４年次に履修するが、単に専門技術や知識のみの修得にならないように、総合大学の利を生かして、他の学科の関連する科目なども履修することが望ましい。

2．コア科目について

1）本コースは総合的な知識が必要とされるので、基礎講義などについては、できるだけ広範囲の分野にわたって履修すること。

2）外国語はドイツ語、フランス語およびイタリア語などを積極的に履修すること。また、西洋古典語やアジアの諸言語を学ぶことが望ましい。

3．専攻科目について

1）コースの必修科目は速やかに履修しておくこと。

2）専門科目の中には毎年開講するとは限らないものがあるので十分注意すること。

3）卒業研究

音楽表現コースでは卒業研究が必修で、次のような４つの選択が可能である。

(1)〈音楽学〉卒業論文

(2)〈音楽学〉卒業論文と卒業作曲作品

(3)〈演奏学〉卒業論文と卒業演奏（ピアノまたは声楽）の両方

(4)〈演奏学〉卒業演奏（ピアノまたは声楽）

これらについては、４年次の最初に選択を決定し、変更はできないので注意すること。

芸術・表現行動学科［履修コース］教育課程及び履修方法

◎学科共通

授業科目	単位数	学年
●コア科目	30	
○文理融合リベラルアーツ	18	1～4
○基礎講義		1～4
○基礎ゼミ		1
○総合科目		1～4
○情報		1
○外国語	10	1～4
○スポーツ健康	2	1
●自由に選択して履修する単位	30	

◇舞踊教育学コース

○履修コース必修科目	29	
舞踊芸術学	2	2
民族舞踊学	2	2
臨床舞踊論	2	2
スポーツ人間学	2	2
体育原理	2	2
動作学	2	2
モダンダン・ステクニック(初級)	1	1
舞踊創作法実習(即興創作)	1	1
同 (舞踊構成法)	1	2
舞踊教育法実習(中等教育)	1	3
民族舞踊実習(初級)	1	1
舞踊・運動科学研究法入門	2	2
舞踊・運動科学研究法演習	2	3
卒業論文	8	4
○履修コース選択科目	33	
(以下の科目から33単位以上修得)		
舞踊学概論	2	1
表現行動論	2	1
舞踊芸術学実験演習	2	3
民族舞踊学実験演習	2	3
臨床舞踊論実験演習	2	3
スポーツ人間学実験演習	2	3
スポーツ文化論演習	2	3
動作学実験演習	2	3
陸上競技	1	1～4
器械体操	1	1～4
新体操	1	1～2
球技(基礎)	1	1～2
同 (指導法)	1	1～4
同 (教材研究)	1	1～4
水泳実習	1	1～4
スキー実習	1	1～4
日本舞踊実習	1	1～4
バレエ実習	1	1～4
モダンダンス・テクニック(中級)Ⅰ	1	1～4
モダンダンス・テクニック(中級)Ⅱ	1	1～4
同 (上級)	1	1～4
舞踊創作法実習(舞踊上演・制作)	2	3
舞踊教育法実習(初等教育)	1	1～4
民族舞踊実習(中級)	1	1～4
同 (上級)	1	1～4
舞踊上演法実習(初級)	1	1～4
同 (中級)	1	1～4
同 (上級)	1	1～4
舞踊表現技法実習(初級)	1	1～4
同 (中級)	1	1～4
同 (上級)	1	1～4
舞踊伴奏法	1	1～4
舞踊音楽構成法	1	1～4
運動学	2	1～4
解剖学	2	2
生理学(運動生理学を含む)	2	2
体育心理学	2	1～4
衛生学及び公衆衛生学	2	1～4
学校保健	2	1～4
病理学	2	1～4
学校安全と救急看護	2	1～4
舞踊学特殊講義	2	1～4
運動科学特殊講義	2	1～4
表現療法講義演習	2	1～4
舞踊・スポーツ情報演習	2	1～4
(他コース開講科目)		
音楽文化概論Ⅰ	2	1～4
同 Ⅱ	2	1～4
比較芸術文化論	4	3～4
○関連科目	2	
身体文化論Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
教育方法学概論	2	1～4
文化人類学概論	2	1～4
生涯学習概論	2	1～4

教育社会学概論	2	1～4

◇音楽表現コース

○履修コース必修科目	36	
ソルフェージュ	2	1
音楽形式論	2	1～2
ピアノⅠ演習(伴奏を含む)	4	1
声楽Ⅰ演習	4	1
作曲原論	4	1
音楽文化概論Ⅰ	2	1
同 Ⅱ	2	1
音楽学概論Ⅰ	2	2
同 Ⅱ	2	2
音楽行動概論Ⅰ	2	2
同 Ⅱ	2	2
卒業研究	8	4
○履修コース選択科目	28	
(以下の科目から28単位以上修得)		
音楽表現論	2	1
ピアノ基礎演習	4	1
ピアノ Ⅱ	4	2
同 Ⅲ	4	3
同 Ⅳ	4	4
声楽 Ⅱ	4	2
同 Ⅲ	4	3
同 Ⅳ	4	4
器楽演奏学	4	2～4
声楽演奏学	4	3
声楽演奏学特講 A	2	3～4
同 B	2	3～4
同 C	2	3～4
同 D	2	3～4
ピアノ演奏学 A	4	2～4
同 B	2	2～4
同 C	2	2～4
同 D	2	2～4
ピアノ演奏学特講 A	4	2～4
同 B	2	2～4
同 C	2	2～4
同 D	2	2～4
ピアノ表現実技Ⅰ	2	2～4
同 Ⅱ	2	2～4
同 Ⅲ	2	2～4
同 Ⅳ	2	2～4
ピアノ特別演習 A	2	3
同 B	2	3
同 C	2	4
同 D	2	4
声楽特別演習	2	2～4
ピアノ表現技法研究	2	3
ピアノ表現技法論	2	3～4
声楽表現技法研究	4	1～4
声楽表現技法論	2	1～4
ピアノ演奏概論	4	3～4
声楽演奏概論	4	3～4
ピアノ作品研究 A	4	1～4
同 B	4	1～4
同 C	4	1～4
同 D	4	1～4
ピアノ演奏法研究 A	4	1～4
同 B	4	1～4
同 C	4	1～4
同 D	4	1～4
声楽作品研究 A	2	3～4
同 B	2	3～4
同 C	2	3～4
同 D	2	3～4
声楽演奏法研究 A	2	3～4
同 B	2	3～4
同 C	2	3～4
同 D	2	3～4
ピアノ表現論	4	2～4
ピアノ表現基礎論	4	2～4
ピアノ芸術論	4	2～4
演奏芸術基礎論	4	3～4
舞台芸術基礎論	2	3～4
ピアノ行動基礎論	2	4
ピアノ音楽文化論	2	2～4
ピアノ演奏解釈論	2	2～4
ピアノ演奏分析論	2	2～4
声楽演奏解釈論	2	1～4
声楽演奏分析論	2	1～4
声楽表現学	4	2
声楽文化論	2	1～4
音声学 Ⅰ	2	1～4
同 Ⅱ	2	1～4
舞台演奏概論	2	1～4
舞台演奏論特殊講義	2	2～4
発声法研究	2	2～4
ピアノ指導法研究 A	2	3
同 B	2	3
声楽指導法研究 A	2	3～4
同 B	2	3～4

対位法	2	2～4
指揮法	2	3～4
伴奏法	2	3～4
作曲Ⅰ	4	1
同Ⅱ	4	2
同Ⅲ	4	3
同Ⅳ	4	4
西洋音楽理論	2	2～4
現代音楽理論	2	2～4
西洋音楽文化論	2	2～4
現代音楽文化論	2	2～4
音楽芸術論	4	2～4
音楽芸術論演習	4	4
音楽認識論	2	2～4
比較芸術文化論	4	3～4
比較芸術文化論演習	4	4
比較音楽文化論	4	3～4
比較音楽文化論演習	4	4
日本音楽演奏法Ⅰ	2	3～4
同Ⅱ	2	3～4
日本音楽文化論	2	2～4
日本音楽理論	2	2～4
アジア音楽文化論	2	2～4
アジア音楽理論	2	2～4
アジア音楽芸術論	2	2～4
民族音楽学	2	3～4
民族音楽理論	2	3～4
民族音楽文化論	4	3～4
民族音楽文化論演習	4	4
音楽社会行動論	2	2～4
ピアノアンサンブル研究	4	2～4
二台ピアノ作品研究	2	2～4
器楽アンサンブル研究	2	2～4
声楽アンサンブル研究A	2	1～2
同B	2	1～2
同C	2	1～2
同D	2	1～2
オペラアンサンブル研究A	2	3～4
同B	2	3～4
同C	2	3～4
同D	2	3～4
オペラ作品研究A	2	1～4
同B	2	1～4
同C	2	1～4
同D	2	1～4
音楽アンサンブル研究A	2	2～4
同B	2	2～4
同C	2	2～4
同D	2	2～4
ピアノ室内楽A	2	2～4
同B	2	2～4
同C	2	2～4
合唱作品研究実習	1	1～4
合唱演奏研究実習	1	1～4
合唱指導研究実習	1	1～4
合奏初級	1	1～4
合奏中級	1	1～4
合奏上級	1	1～4
卒業演奏研究	2	4
(他コース開講科目)		
民族舞踊実習(初級)	1	1～4
舞踊伴奏法	1	1～4
解剖学	2	2～4
生理学(運動生理学を含む)	2	2～4

グローバル文化学環

「グローバル文化学環」がめざすもの

グローバル化する世界の中で、私たちはどう生きるのでしょう？国境を越える人びと、情報、商品の流れは、私たちの住む世界をどのように変えるのでしょうか？異なる文化や言葉をもつ人びとが私たちの隣人となり、私たち自身が海外に出かけさまざまな文化の人びとと出会い、暮らすことがあたり前になるなかで、どのような知や感性が求められているのでしょう？

グローバル文化学環は、こうした問いに皆さん自身が答えを見出していくためのコースです。学部や学科を超えて開かれたコースであり、多様な専門領域にまたがる教員と学生たちが力を合わせて創るコースです。その気持ちをこめて、「環」と名付けました。

グローバル文化学環がめざすのは、文化の「差異」を理解し、大切にしながら、その差異を超えて協同し、何かを共に創り出すような、グローバル化時代の新しい市民を育てることです。ここに並んだ授業や、そこでの教員・学生仲間とのコミュニケーションを通じて、皆さんは、国際協力や、国際化するビジネス・学校教育・地域社会などの場で活躍するために身につけるべき知識と態度を得ることでしょう。

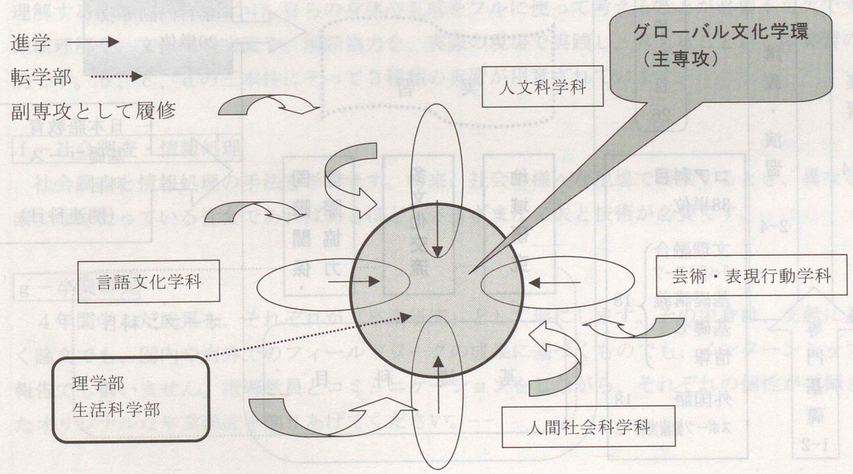
1．専攻と副専攻

グローバル文化学のカリキュラムは、〈環〉に進学し主専攻として履修する場合と、文教育学部の他の専門コース、あるいは生活科学部や理学部に所属して副専攻として履修する場合の２つのメニューがあります。文教育学部の４つの学科のいずれからも進学できる共通進学コースです。

グローバル文化学を**主専攻**とする場合は専攻科目を40単位以上（卒業研究を必修とする）、**副専攻**とする場合は専攻科目20単位以上を履修します。

グローバル文化学を主専攻とする学生は、原則として、所属する学科のいずれかの専門コースの科目（専攻科目、関連科目）を20単位以上履修し、これを**学科内副専攻**とします（学科共通科目を含む）。

図１　〈グローバル文化学環〉組織図



2．外国語の履修について

外国語をつかって、実際にコミュニケーションできる力を養うことをめざします。下手でもいいから、声にだし書いてみること、上達はそこから始まります。コミュニケーションは相手次第。表情や身振りも、文章の背後にある意図を読みとることも大事です。

まず英語は１～２年次に10単位を履修してください。３年次以降も、上級英語、英会話の履修などで力をつけること、お茶大の海外語学研修をはじめ現地で学ぶことを奨励します。

残りの単位は、第二外国語（独、仏、中、露、朝鮮語）および学部共通科目（アジア諸語、スペイン語、イタリア語）から８単位以上を履修してください。

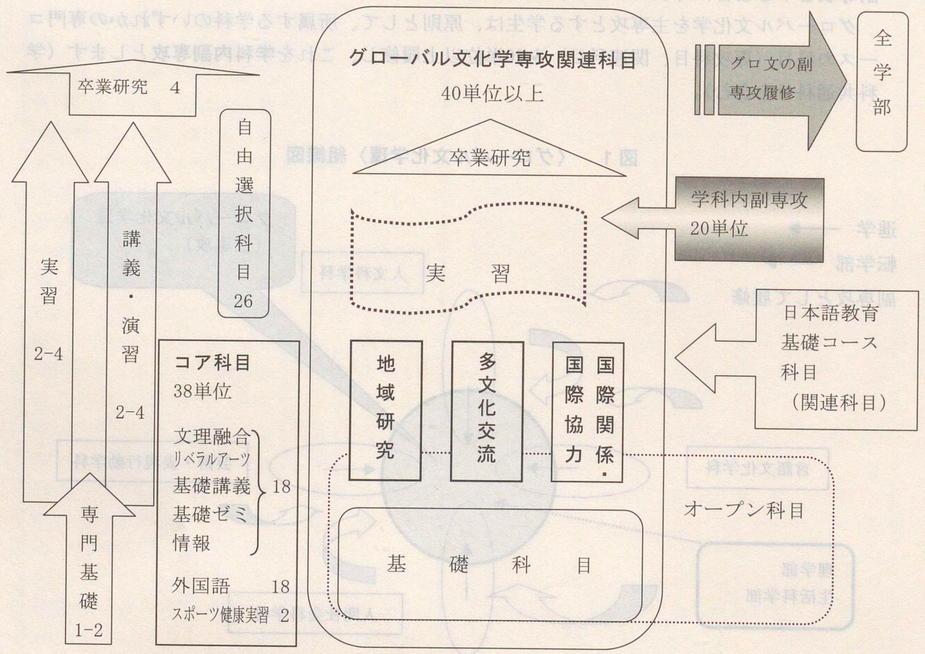
3．専攻・関連科目について

グローバル文化学の専攻科目として、以下のａ～ｇの系列科目を開講します。

ａは１～２年次に履修する基礎科目です。グローバル文化学に進学を希望する学生はまずこれを履修し、どんな学問かを体験してください。同時に、ｂ～ｄの専攻科目を学習する基礎になります。

専攻科目は、地域研究・地域文化（ｂ系列）、多文化交流・多文化共生（ｃ系列）、国際関係・国際協力（ｄ系列）の３つが柱になっています。講義と演習を組み合わせて学びます。実習（ｅ系列）は学外での体験学習です。社会調査・情報処理（ｆ系列）は、実習や卒業研究に必要な社会調査情報処理の技法を学ぶ科目です。これらの知識や経験をもとに卒業研究(g)に取り組みます。

図２　〈グローバル文化学環〉カリキュラム図



ａ－基礎科目

「グローバル化」によって、国家を単位とした政治、経済、文化はどう変わりつつあるのか？日本の位置は？グローバル化という現象の全体像を、様々な切り口から学ぶ科目です。

ｂ－地域研究・地域文化

グローバル化によって、地域の社会や文化がどのように変わってきているのかを、アジア太平洋を中心としたさまざまな文化圏をとりあげて考えます。このような考察を通して、グローバル化の中の地域・文化の葛藤と将来の「世界」のなかでもつ位置が見えてくるでしょう。

ｃ－多文化交流・多文化共生

国境をこえた海外での交流はもちろん、日本の国内でも、多様な文化的背景をもつ人々の接触と交流が日々行われています。食物や衣服、メディアを通じた接触も私たちの異文化理解に大きな影響を与えています。ここでは、国内外での多様な接触や交流が個々人の行動にどのような影響を与えるか、言語的、心理的な側面も加味して考えることにより、相互理解と協調・共生にはなにが必要かを、知識と実践の両面から学びます。

ｄ－国際関係・国際協力

現代の国際関係は、グローバル化にともない、大きく変化しています。そこでは国家だけではなく、企業、国際機関、ＮＧＯ、個人などが活躍するようになりました。この中で、国際協力を進めて共生を深める必要が高まっています。国際協力は、豊かな国から貧しい国への一方的な援助でも、先進国の価値観を途上国に押し付けることでもありません。大切なのは、両者の文化や価値の違いを理解した上で、相互に学びあいながら、協力の方法を創りだしていくことです。

ｅ－実　　習

「グローバル文化学環」の特色のひとつが、この「実習」です。グローバル化の問題を考え、理解するには、現場に出かけ、自らの身体や五感をフルに使って考えることが必要不可欠です。地域理解や、文化間の交流や、国際協力を、実際の現場で実践し、考えることがこの実習の目的です。ｂ、ｃ、ｄの三本柱にそって３種類の実習が用意されています。

ｆ－社会調査・情報処理

社会調査と情報処理の手法を学びます。将来、社会の様々な現場で活動するとき、異なる要素でなりたっている社会であればあるほど、さまざまな工夫と技術が必要です。

ｇ－卒業研究

４年間学んだ成果を、それぞれが「卒業研究」として形にします。その中身は、文献に基づく論文でも、国内や海外でのフィールドワークの成果に基づくものでも、インターンシップの報告でも構いません。指導教員とコミュニケーションをしながら、それぞれの個性が発揮されたオリジナルな卒業研究を創りあげてください。

h－関連科目

グローバル文化学環の履修目的に関連する科目で、その履修を薦めます。とくに、日本語を母語としない人に日本語を教授する方法を学ぶコース（日本語教育基礎コース）は、言語コミュニケーションの方法やグローバル化のなかでの日本語の位置について学ぶことができます。海外で国際協力や教育関係の仕事をする上でも有用な技能となります。

4．グローバル文化学環専攻・関連科目履修単位表

	専門基礎	地域研究 地域文化	多文化交流 多文化共生	国際関係 国際協力	実　習	必　修 卒業研究	自由選択の 専攻・関連科目	学科内副専攻 （学科共通科目 4単位含）
主専攻 40	8	4	4	4	4	10	6	20
副専攻 20	4～8	12～16					----	----

（付記）　自由選択の専攻・関連科目８単位は、a～f、hのいずれの系列から履修してもよい。
副専攻の実習、卒業研究の履修希望者については余裕があれば適宜受け入れます。

5．進学振り分けについて

5.1　２年次から本学環に進学し、本学環を主専攻として、履修規定に従って所定の単位を取得した学生は、グローバル文化学環専攻者として卒業認定します。学生の所属（学籍）は、入学時の学科のままになります。

5.2　進学振り分け

5.2.1　定員は３学科（人文、言語文化、人間社会）の学生数（現員）の15%、芸術・表現行動学科は若干名とします。各学科の進学希望者が学科ごとの定員の枠内であれば全員進学ができます。定員枠をこえた場合は、グローバル文化学総論の成績、志望理由書、面接によって選考し、総数において総定員をこえないようにします。

5.2.2　他学部からの進学希望者は、転学部の扱いとし、文教育学部の進学振り分け時に応募します（志望理由に応じていずれかの学科をえらびそこの学籍をもちます）。選考方法は文教育学部内の進学者と同じ方法をとりますが、総定員枠に含めず別枠とします。

6．担当教員

グローバル文化学環の授業や運営は、地域研究、多文化交流、国際関係・国際協力の分野の教員が専任として担当するほか、文教育学部および生活科学部の教員が授業や運営に協力します。

グローバル文化学環［履修コース］教育課程及び履修方法

授業科目	単位数	学年
◎学科共通		
●コア科目	38	
○文理融合リベラルアーツ	18	1～4
○基礎講義		1～4
○基礎ゼミ		1
○総合科目		1～4
○情報		1
○外国語	18	1～4
○スポーツ健康実習	2	1
●自由に選択して履修する単位	26	
○主専攻必修科目	10	
グローバル文化学特論	2	3～4
g 卒業研究	8	4
○主専攻選択科目	30	
a 基礎科目		
（以下の科目から８単位以上修得）		
グローバル文化学総論Ⅰ	2	1～4
グローバル文化学総論Ⅱ	2	1～4
国際関係論	2	1～4
グローバル・メディア論	2	1～4
グローバル化と経済	2	1～4
国際ジェンダー論	2	1～4
比較法文化論	2	1～4
グローバル・ヒストリー	2	1～4
b 地域研究・地域文化		
（以下の科目から４単位以上修得）		
地域研究方法論	2	2～4
文化理論研究	2	2～4
クレオール文化論Ⅰ	2	2～4
クレオール文化論Ⅱ	2	3～4
イスラム社会文化論Ⅰ	2	2～4
イスラム社会文化論Ⅱ	2	3～4
オセアニア社会文化論Ⅰ	2	2～4
オセアニア社会文化論Ⅱ	2	3～4
対日交流論	2	2～4
韓国（コリア）社会文化論	2	2～4
中国社会文化論	2	2～4
東南アジア社会文化論	2	2～4
南アジア社会文化論	2	2～4
アフリカ社会文化論Ⅰ	2	2～4
アフリカ社会文化論Ⅱ	2	2～4
地域研究特論Ⅰ	2	2～4
地域研究特論Ⅱ	2	2～4
地域文化特論Ⅰ	2	2～4
地域文化特論Ⅱ	2	2～4
c 多文化交流・多文化共生		
（以下の科目から４単位以上修得）		
多文化間交流論	2	2～4
言語と文化	2	2～4
文化と人間関係Ⅰ	2	2～4
文化と人間関係Ⅱ	2	3～4
グローバル化と日本語教育Ⅰ	2	2～4
グローバル化と日本語教育Ⅱ	2	3～4
共生日本語	2	2～4
文化と心理	2	2～4
身体文化論Ⅰ	2	2～4
身体文化論Ⅱ	2	2～4
身体文化論Ⅲ	2	2～4
言語と社会Ⅰ	2	2～4
言語と社会Ⅱ	2	2～4
言語と社会Ⅲ	2	2～4
多文化共生論	2	2～4
国際交流論Ⅰ	2	2～4
国際交流論Ⅱ	2	2～4
多文化交流特論Ⅰ	2	2～4
多文化交流特論Ⅱ	2	2～4
多文化共生特論Ⅰ	2	2～4
多文化共生特論Ⅱ	2	2～4
d 国際関係・国際協力		
（以下の科目から４単位以上修得）		
国際協力学	2	1～4
国際開発論Ⅰ	2	2～4
国際開発論Ⅱ	2	2～4
国際開発論Ⅲ	2	2～4
平和構築論Ⅰ	2	2～4
平和構築論Ⅱ	2	3～4
グローバル化と労働Ⅰ	2	2～4
グローバル化と労働Ⅱ	2	2～4
国際機構論	2	2～4
国際教育協力論	2	2～4
ＮＧＯ／ＮＰＯ論	2	2～4
国際協力方法論Ⅰ	2	2～4
国際協力方法論Ⅱ	2	3～4
比較社会政策論	2	2～4
地域開発論Ⅰ	2	2～4

地域開発論Ⅱ	2	2～4
地域開発論Ⅲ	2	2～4
国際金融論	2	2～4
国際協力特論Ⅰ	2	2～4
国際協力特論Ⅱ	2	2～4
民際協力特論Ⅰ	2	2～4
民際協力特論Ⅱ	2	2～4
e 実習		
(以下の科目から4単位以上修得)		
多文化交流実習Ⅰ	2	2～4
多文化交流実習Ⅱ	2	1～4
多文化交流実習Ⅲ	2	2～4
多文化交流実習Ⅳ	2	2～4
地域研究実習Ⅰ	2	2～4
地域研究実習Ⅱ	2	2～4
地域研究実習Ⅲ	2	2～4
地域研究実習Ⅳ	2	2～4
国際協力実習Ⅰ	2	1～4
国際協力実習Ⅱ	2	1～4
国際協力実習Ⅲ	2	2～4
f 社会情報処理		
社会情報処理演習Ⅰ	2	2～4
社会情報処理演習Ⅱ	2	2～4
フィールドワーク方法論	2	2～4
h 関連科目		
日本の社会と文化	2	3～4
英米事情	2	3～4
日本語教育基礎コース科目	2	3～4
○学科内副専攻選択科目	20	
(以下の科目から20単位以上修得) 所属学科のいずれかの専門コースの 専攻・関連科目 (学科共通科目4単位を含む)		